

## 「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

- 例言
- 1 『看聞御記』（『続群書類従 補遺二』）と前掲「全文テキストデータベース」との照合作業は主に輪読する形で行われたが、本表はその副産物である。
  - 2 本表は応永23年（1416）正月から同25年（1418）末までの3年間を対象としており、この間に伏見宮貞成が日次に記した記事857日分の記事要旨を一覧表にしたものである。
  - 3 日ごとの記事には当然ながら内容に厚薄がある。したがってその記事事項の摘出基準も一定ではない。
  - 4 要旨本文中には、理解を助けるため、適宜情報を（）で補い、文末に\*として備考を設けた。
  - 5 本表はデータベースソフトを用いて日別に整理されたものの一部であり、今後記事の分類によるテーマごとの記事要旨年表へ発展させる計画である。

本表の作成は尾崎安啓が担当した。記事の理解の誤りや不備な点については、諸賢のご叱正を得ながら校訂を期することにしたい。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
応永23年	
冒頭	日記今年より始む、以前は書かずと（「端裏書」）。
正月 1日	禁中正月節会、内弁今出川公行・続内弁広橋兼宣。仙洞御薬、陪膳公行。將軍家の親族拝に今出川實富、所望により初参。伏見宮に田向経良・重有等候ず。
正月 2日	院御薬、陪膳花山院大納言。楊梅中將親家に今様出歌を譲る。内裏淵酔にて源持経、將軍義持の權威を背景に殿上人の座に列す。
正月 3日	院御薬、陪膳花山院大納言。
正月 6日	叙位、執筆は二条大納言（持基）。
正月 7日	禁中白馬節会、内弁花山院忠定。伏見宮に風流松拍参る（地下山村・木守、殿原田向・庭田・御所青侍ら）。
正月 8日	医師昌耆法眼、栄仁の脚気の治療に参る。
正月 9日	相国寺大塔（七重）落雷により焼失。北山女院夢想・天狗所行など雑説。
正月10日	今日、諸人・諸門跡・関白経嗣以下面々、室町殿へ参賀するも対面無し。室町殿（義持）の帰亭を待たず退出の事に立腹の由。
正月11日	早朝、治仁・貞成・庭田重有等、雪の指月庵に行く。京より松拍参り、猿楽等乱舞、禄物扇等賜う。伏見宮にて恒例の酒宴あり。
正月12日	十二日再度室町殿へ人々参賀するも御対面無しと。
正月13日	隆盛・経時・経興同道にて御所様（栄仁）へ参賀。栄仁親王、新御所（治仁王）へ万秋楽三帖・奥二拍子秘説を伝授さる。*「大通院殿御伝授状」＝「楽書集成」
正月14日	風呂始め。貞成、大光明寺の風呂に入る。
正月15日	地下村々（山村・三木・石井・舟津）より風流松拍参る。
正月16日	踏歌節会。内弁三条公量のところ將軍突鼻（とつび）により急に二条持基。*同月十日の一件
正月18日	門前にて三毬杖。
正月19日	長照院（光明天皇内親王/法華寺長老）・今御所（?）入御。
正月20日	住心院豪融僧正参賀。
正月22日	今出川公富に初めて男子誕生。母は故菅原長頼娘（廿一年暮に迎えた室嫁）。
正月24日	栄仁親王、貞成王に万秋楽・奥二拍子秘説を伝授さる。冷泉左馬頭永基参賀、尺八吹く。大教院隆経律師参賀。*「大通院殿御伝授状」＝「楽書集成」
正月26日	万秋楽秘説の奥書下さる（二十四日伝授）。
正月27日	夜、庚申あり。新御所御方にて回茶・双六あり。
正月28日	正永・勝阿・祐誉律師等、参賀。一献あり。
正月30日	栄仁病気軽減につきお湯始め。昌耆法眼薬を献じ、禄を賜う。椎野殿（貞成連枝）、今出川隆富参り酒宴・歌舞あり。
2月 1日	蔵光庵主より、点心三種・茶子等を進む。休翁庵主七回忌にて鹿苑院主顎隠、大光明寺長老徳祥以下僧衆招請さると。
2月 6日	栄仁本腹により賀酒。乾蔵主沙汰。
2月 7日	少納言常宗（清原良賢）老齡の為、室町殿への参仕停止。来る二十八日、内裏にて舞御覧あり。奉行勸修寺経興。將軍御沙汰。*「康富記」文安元. 10/23
2月 8日	和歌御会あり。前もって出題し、この日披講する。終了後盃酌。梅花遊覧、法安寺参詣。
2月 9日	將軍義持、参内。一献料万疋・唐物五種持参。
2月10日	栄仁本復の賀酒あり。宮中男女各申沙汰。
2月11日	にわかには御歌会。抹香一寸燃焼の間に詠み勝負、懸物あり。
2月12日	今春初めて連歌あり。小川禅啓・廣時祇候。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
2月15日	光臺寺にて涅槃講あり。貞成聴聞。
2月16日	昨日の涅槃講捧物を僧らに送り遣わす。残りは男女でくじ引き。大原野祭へ今出川大納言實富参る。
2月17日	綾小路（源）信俊、伏見宮へ今春初参。勾當局、春日祭内侍として参行し帰路伏見宮へ寄る。芝殿（田向経良室嫁）も参る、ともに珍客なり。
2月18日	勾當局、早朝より御所旧跡遊覧。勾當局女御前にて賜盃。
2月19日	今春楽初め。舞立五番。貞成、音曲稽古。
2月20日	にわかには御茶会あり。今後順事茶として結番し、懸物あり。
2月22日	世尊寺行豊伏見宮へ参る。是明房、涅槃講（十五日）の礼に来る。
2月23日	三位・重有等、寶泉のもとに森船新造を見に行く。連歌を催す。
2月24日	春彼岸（時正）結願。庭田重有青侍長政出家（法名行光）。惠舜蔵主が、しばらくの暇乞いに来る。
2月26日	先日の順事回茶。貞成等当番により風流の懸物を用意。
2月28日	三木善理が御所近隣地を無断で蔵光庵に売渡した事で伏見宮より政所禅啓に苦情申し入れ。
2月29日	禁裏舞御覧あり。將軍義持沙汰。上皇の御所作無し。
3月1日	先日、順事茶会あり。趣向を凝らした風流・懸物あり。*伏見院宸筆一卷
3月3日	桃花宴あり。当所、鶏飼わざるにより鶏闘無し。行豊連歌張行。
3月4日	栄仁本復に付、大光明寺にて花見。治仁・貞成等、寺長老と出会う。一行、大光明寺から惣得庵へ招引さる。貞成幼少時依頼の来庵。昨日の連歌百韻続きを行う（世尊寺行豊）。*御手本（権跡）
3月6日	京都大火あり。上杉一族屋形炎上。
3月7日	順事茶あり。綾小路三位・壽蔵主・地下政所禅啓頭役申沙汰。その後音楽芸能あり、廣時猿飼姿で舞う。*「廣時天性有骨者也」
3月9日	晩に治仁・貞成等遊山し蔵等持ち帰る。伝聞、後小松院で猿楽（梅若）あり。
3月10日	御香宮神事あり、楽頭八田愛王大夫は去年罪科により八田庄を追われ隠居。ただし脇猿楽には丹波猿楽を雇う。*大法師丹波猿楽
3月11日	猿楽昨日同様行ふ。鹿苑院主鄂隠和尚以下権門僧侶見物。將軍義持、石清水八幡社参。
3月12日	鳥羽院御物「御拍子」を源宰相が貞成より預かる。
3月16日	勸修寺御比丘尼（常盤井宮息女）伏見宮へ御参。栄仁本復祝い
3月17日	栄仁、勸修寺比丘尼をもてなす。
3月19日	伏見宮にて楽あり。のち庭田邸にて花見・楽あり。
3月22日	三位入道通公一献持参。
3月23日	栄仁老病にて没後御領安堵を仙洞へ申す件で正永（永基代）を伏見宮に召す。（聞）夜、除目あり、執筆は花山院忠定。
3月24日	菊弟左府より状あり。廿七日仙洞にて御会、上覧に備え和歌三首用意あり。
3月25日	今夜、仙洞御遊の習礼あり。御所様も朗詠と云々。終夜大飲。猿楽等あり。（聞）夜、除目入眼。
3月26日	（聞）西園寺右大将實永、今夜拝賀。散状（殿上地下前駆・隨身番長）。
3月27日	仙洞両席御会あり。左府（今出川公行）雑熱にて不参。よって琵琶なし。
3月28日	今夜、庚申。
3月晦日	真珠院比丘尼御所入御。賽茶・三月盡の御歌（衆議判、披講明日）あり。
4月1日	昨日の三月盡御歌の披講あり。衆議判にて右方勝。十種香等あり。
4月6日	新御所・貞成等花見（山ツツジ）に出かける。松原芝居にて一献。
4月9日	祖一勾当参り、平家を申す。
4月15日	新御所御方にて楽あり。重日楽の稽古を始める。（聞）南都にて常楽会あり。荒序所作の事で地下伶人間で競望あり、よって略す。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
4月16日	法華会法用にて舞楽あり（後日、豊原郷秋目録持参）。伏見宮でも楽あり、栄仁親王琵琶所作。
4月18日	椎野（貞成連枝）昨日入来。父親（栄仁）を賞玩する。
4月19日	御楽あり。妙音天御法楽。重日楽等。
4月20日	(聞)今日、石清水臨時祭が代始の先規に任せて行われる。入江殿今御所・岡殿、栄仁本復祝いに参る。
4月22日	世尊寺行豊、石清水臨時祭の際の小忌装束を着し参る。貞成装束詳細を記す。
4月23日	賀茂祭あり、典侍広橋兼宣息女（綱子）。住心院深基法印参る。祖一（盲僧）参り平家申す。光台寺新造風呂（造主宝泉）に栄仁・貞成等招かれる。*綱子＝「兼宣公記」24.1/8
4月24日	祖一、平家申す。その後播州へ下る由にて貞成琵琶弦を与える。
4月25日	北野社に佐鳥出現。宮仕これを射落とす、將軍へ注進。褒美あり。
4月26日	栄仁、耳聞こえず。昌耆（医師）龜の小便を混ぜた薬が良いと進言。早速手配
4月29日	常楽会あり。花台、寶泉が進上する。
5月 2日	御楽あり。栄仁・治仁琵琶所作。（聞）今日から等持寺八講始まる。
5月 3日	(聞)宇治橋供養あり。南都北京近国の律僧等参集。御連歌あり、貞成が歌の作者について治仁・重有と論争する。*平家歌共撰集双子
5月 4日	將軍・若君にくす玉を進呈する。祝着の由御返事あり。（聞）等持寺八講に今出川実富出仕。
5月 5日	節句（端午）の儀あり。貞成風呂に入る。御連歌あり。（聞）賀茂競馬見物中に裏松家人と畠山家人が喧嘩。九条満教亭へ強盗、八条中将公興（九条家礼、西園寺？）一人で防戦、高名の至り。
5月 6日	栄仁、今年になって初めて指月庵へ出かける。豊原郷秋参り御楽あり。（聞）等持寺八講結願する（5/2～）。
5月 8日	大光明寺得都主参り、明日の亡父三十三回忌に栄仁の聴聞を願い、承諾さる。（聞）慈光寺師仲（光仲息）が悪性の腫れ物で死去。
5月 9日	早朝より栄仁、大光明寺へ御聴聞に行く。治仁・椎野も同道。貞成不参。三位、竹田御塔（安楽寿院）の修理のことで出京。*法安寺田段銭
5月17日	周乾（貞成連枝）参る。栄仁を交えて酒宴あり。
5月19日	貞成、他所へ預けている文書を持って来させ披見し虫払いする。楽あり。
5月20日	楽あり。栄仁御所作（鞞鞞）。
5月21日	重有、京から帰り、春日・日吉・八幡等各方面の恠異を語る。凶事の前兆か。
5月22日	九条邸（満教）へ先日強盗あり、よって三位が栄仁の使いとして参る。禁裏→世尊寺行豊→三位と白羊を預かる。貞成初めて羊を見る。
5月24日	栄仁、逆修として地蔵講を発願し催す。次に講演として楽あり。御所作あり。
5月25日	御脳により聖廟祈祷の為、御連歌法楽あり。
5月27日	重日楽あり。その後栄仁の仰せにより請取楽あり。各々請取も練習不足。文書虫払い、藤原行成真筆一卷（神鏡炎上の件で勘文・詮議定文）等。
5月30日	豪融僧正、伏見宮に参り栄仁と雑談。
6月 1日	六月一日恒例の愛染会行われる。東寺教遍法印供養す。幕府、相国寺を兵具所持の疑いで寺内搜索。喝食の暴行事件が発端。
6月 2日	来る九日の明見庵主の三十三回忌法要の講演の為、栄仁等楽を練習する。
6月 3日	伏見宮近所の新堂で法華経を談じる伝明僧の事を聞き、栄仁これを召す。
6月 4日	世尊寺行豊・蔵人重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。
6月 6日	九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。
6月 7日	恒例の祇園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演奉行として参る。楽稽古あり。
6月 8日	行蔵庵にて明見庵主三十三回忌法要仏事（講演）に栄仁・貞成等出かける。その後、椿一檢校参り（当時有名望堪能者）平家三句を申す。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
6月9日	栄仁、饑法事所望あるも、持病の風気再発し出御せず。点心。僧侶入浴。楽あり栄仁風気を押して聴聞。椿一、平家五句申す。
6月10日	楽あり。五辻教仲、伏見宮に参る。御領一変後疎遠なるも八幡の帰路立寄る。椿一、平家を申す。
6月11日	栄仁、豊原郷秋に伏見庄加納芹河一村を笙一曲の伝授と交換に安堵する。貞成、豊原郷秋への安堵に付、老体無益と批判、競望の長広奉公停止をも批判。
6月12日	行蔵庵仏事（明見法要）に大光明寺長老以下八十余名の僧を招請。菊亭（今出川）より貞成の事（料所）で栄仁に申入があり信俊に返事された。
6月13日	栄仁腰痛。三日病を疑うも、医師参り御風冷と診断し、薬を処方する。椎野より一口物語絵巻二巻（聞、大覚寺殿御絵）を借覧する。郷秋に安堵の地は元長広に同情し替え地の仰せ。*紙背149号→翻
6月14日	祇園会なれども栄仁体調すぐれず内祭なし。医師同阿投薬。
6月16日	日野一位入道（性光）納涼に伏見へ。公卿等船遊びで魚釣り、僧に制止さる。夜に椿一参り平家を申す。
6月17日	昨日の遊漁に付、大光明寺長老から処罰要求、三位奉行職を更迭さる。菊亭左府公行、新御所の琵琶御灌頂を催促。
6月19日	医師同阿参り、栄仁の御脈をとる。容態良好に付、貞成喜ぶ。田向長資禁裏小番に初出仕。称光天皇刀弓で乱行に付將軍より厳密の沙汰。16日の魚釣り事件で三位御突鼻（とっぴ）に付、寿蔵主仲介し御免となる。
6月20日	長資禁裏小番より帰る。聞、相国寺僧等百五十人魚食の疑いで逮捕さる。
6月21日	楽あり。貞成、栄仁より琵琶「仙家」を賜る。禅啓、魚釣の罪を御免される。*紙背85号
6月23日	大光明寺長老、魚釣り事件落着に付、伏見宮へ御礼に参る栄仁対面せず。相国寺魚食逮捕の僧、武具所持の僧許され大光明寺長老喜ぶ。
6月24日	栄仁老病に付、御領相続安堵の為名笛を院に進呈する考えを検討する。
6月25日	貞成、今日から三日間御領安堵祈念の為、泊瀬清水礼拝を始める。
6月26日	貞成等、炎暑に付、納涼の為御前船に乗り盃酌あり。名笛を院に献上し安堵の件等お願いのところ近日御返事と勾當の報告あり。新御所琵琶御灌頂の件、左府等の沙汰で決定。陰陽師日時勘進。
6月27日	泊瀬清水礼拝三日結願、貞成所願成就を喜ぶ。殿上にて雲脚順事（茶）あり。
6月28日	貞成申沙汰にて順事茶会を催す。大光明寺の客僧物語を上手に語る。
6月30日	綾小路信俊参り、室町院遺領安堵院宣くださる由報告。貞成喜ぶ。
7月1日	栄仁、勝阿に室町院領目録の内、当知行目録を明日整備するよう命じる。仙洞御所（日野資教＝性光邸）炎上。後小松院は三宝院に避難し無事。
7月3日	順事茶あり。物語僧（大光明寺客僧）又参り山名奥州謀反事を語る。大光明寺と山田宮樹木伐採を機に境内社地所争い。宇治川で白蛇発見の噂。
7月4日	栄仁、大光明寺と山田宮との社地木所屬の争い、双方の言い分を聞く。
7月5日	仙洞焼失に付、御所新造迄の間三宝院から勸修寺経興小川亭へ御座を勧める。新造事始め日時を土御門泰家十三日と勘進。費用段銭＝守護一国万疋、門築地＝管領沙汰、地引＝侍所一色等仰せ。
7月6日	栄仁、仙洞へ火事見舞いの御書を勾當に付して送る。
7月7日	七夕。伏見宮へ貞成を始め大勢の人々から花が集まる。物語僧・狂言・楽等。
7月8日	（後聞）相国寺鎮守八幡前で白蛇降る。近江でも龍降る。
7月9日	仙洞より六日の火事見舞いの返事到来。献上の名笛無事との事。
7月10日	大光明寺長老参り山田宮木伐の件で文書持参し故障申す。栄仁判断を避ける。
7月12日	長広伏見宮門前で、加納芹河一村剥奪の件で貞成に嘆く。栄仁には対面せず。
7月13日	仙洞御所新造事始め。作所奉行は富樫兵部大輔。御所の跡を侍所等で掃除。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
7月15日	孟蘭盆会運供養・施餓鬼あり貞成不参。貞成石井・船津の念仏拍物密に見物。
7月16日	貞成、山城国桂里の石地藏の靈験譚を記す。この石地藏信仰の流行に関心。
7月17日	仙洞（後小松）小河亭御所へ御移住。將軍義持も参会し直に対面。菊亭より南向（公行母・貞成養母）痢病にて重体との知らせあり。
7月18日	南向の容態、一度こと切れ又息を吹き返すも、医師頼直の診断は絶望。新御所琵琶御灌頂の為、七日間の御楽を始める。妙一勾当、伏見宮へ参り平家を申す。
7月19日	慈光寺通光・綾小路信俊、新御所琵琶灌頂の奉行として伏見宮に参る。また、妙一参り平家を申す。
7月20日	入江殿今御所、母真修院老病に付一期領主御恩地を御比丘尼御所に譲与申入。貞成の養母南向逝去す。
7月21日	御楽あり。入浴。貞成、今日より故南向の為精進看経を始める。
7月22日	栄仁親王、園宰相基秀に催馬楽秘曲を伝授する。終わって御楽あり。
7月23日	源宰相・三位・長資・寿蔵主等、桂地藏参詣の為、明け方から出かける。南向、東山寶幢寺にて茶毘にふされる。
7月24日	地藏講あり。栄仁、貞成に琵琶灌頂あり。奉行長資。*「大日本史料」7-24 p419
7月25日	勘解由小路右衛門督入道親子、納涼の為とて伏見宮へ参る。寶泉坊に寄宿。
7月26日	新御所御灌頂無為に付、源宰相に御盃を賜る。南向の初七日、貞成看経。貞成、升と小蛇、宇治今伊勢の白蛇、河原院聖天前の蛇三話の巷説を記す。
7月29日	貞成、新造仙洞御所の門立柱の儀行われると聞く。
8月1日	八朔の御憑に付、仙洞（後小松）・室町殿（義持）へ進物。
8月3日	御室仁和寺へ御憑の進物。各家から伏見宮へも届く。高倉常永死去の報を聞く。
8月5日	御室より御憑のお返しとして牛一頭が届く。
8月7日	勾当局より御憑の品が届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。
8月9日	貞成、今日桂地藏に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。
8月12日	仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源宰相→勾当局
8月14日	石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。
8月15日	石清水放生会にて神人4名四二箇条の訴訟有りと申し閉籠。上卿等協議する。花山院大納言忠定逝去。病中宣下、死後還任。忠定は子供なし、猶子相続。栄仁、桂地藏に三日代参させる。貞成も願書奉納。
8月16日	石清水放生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例により隔月（来月）に延期。園宰相基秀、栄仁に相甲の琵琶を献上。
8月17日	伏見庄地下人等、桂地藏に風流拍物を演じる為に参る。（聞）將軍義持は清和院地藏に参籠し御堂を新造するとのこと。
8月19日	医師昌耆法眼参り、栄仁を診察する。旧冬の脚気再発か、腰痛にて起居不叶。
8月21日	医師昌耆法眼参り、十四味建中湯・御腰付薬を調進。胡銅瓶・御扇を賜る。
8月23日	地藏拍物（練行列）は、四条烏丸より唐人入浴の様を学ぶとのこと。
8月25日	秋彼岸初日。故南向の三十五日忌に付、看経する。栄仁の腰痛に秘灸（医師心智客口伝）が効くと継首座が申し出る。
8月27日	大光明寺長老、栄仁病氣平癒の祈祷大般若経転読結願報告。継首座灸治する。
8月28日	貞成の仕女今参局、着帯の儀。
9月1日	御香宮の祭礼、夜の神幸・御旅所での相撲等、貞成等密かに見物する。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
9月2日	秋の彼岸結願。栄仁、病悩・訴訟等の祈願の為、桂地蔵に代官派遣し参詣。
9月3日	仙洞より室町女院御遺領安堵の院宣到来。永代御管領の記載あり。播州国衙別納十ヶ郷安堵の件は後日とのこと。諸願成就是桂地蔵の利生か。
9月4日	伏見庄安堵の件・播州国衙の件は重ねて申し入れの由報告あり。(聞)將軍義持、十一日に南都下向とのこと。*「後崇光院御文類」
9月6日	勝阿、伏見宮へ参り室町院領のことで栄仁と相談する。
9月7日	明日は故南向の引上四十九日仏事に付、貞成自写の浄土三部経を菊亭へ遣す。
9月8日	菊亭にて故南向の四十九日仏事あり、相国寺僧を招請し観音懺法を執行。
9月9日	重陽の節句。御香宮祭礼に風流笠拍物参り貞成等、御所より見物する。貞成今日より百日間四弦和歌等の稽古を始める。
9月10日	伏見宮に獅子舞参る。禄物扇等を下さる。
9月11日	室町殿(義持)南都下向。教興その御点に入るも、急に参らず。
9月13日	仲秋の名月。和歌短冊廿首を披講。
9月15日	先月延期の石清水放生会が無事行われる。上卿以下諸役は元の通り。
9月16日	室町殿南都より帰洛。警固・行列次第を記す。逗留中は寺門延年猿楽で供応。義持、御領本復等の条件を再三申し入れ吉野より後龜山法皇を迎える。
9月17日	山田宮神事猿楽あり。楽頭矢田愛王大夫、伊勢猿楽を雇う。貞成等密に見物。
9月18日	御香宮猿楽。三位を使いとして、伏見庄安堵の件で広橋兼宣に催促する。
9月19日	三位より伏見庄・僧坊田・室町院領御教書の事を書に記載と報告あり。
9月20日	貞成瘡病か。経良息律師隆経、明日伝法灌頂との事、助成として牛一頭遣す。治仁以下、月見岡で松茸狩をする。
9月21日	三位使いとして広橋邸に行くも兼宣外出にて御事書は渡さずということ。法安寺・権現猿楽あり。治仁、密かに権現猿楽を見物する。
9月22日	貞成、瘡病発作に付、弘法大師御筆のを水に濯ぎ飲む。良明房加持。
9月24日	地蔵講あり。広橋へ將軍招請し訴訟申次。仙洞より播州国衙院宣の件問題なしとの返書あり。称名院で寶泉亡母供養の如法経あり。経良息周郷が周乾と不和逐電。*院返書=「宸翰栄華」225号
9月26日	貞成瘡病発作起こる、法安寺良明房加持により治まる。
9月27日	真修院に法安寺田・播州国衙年貢等に付、安堵の御染筆あり。
9月28日	三位帰参し、広橋兼宣に御事書を渡したことを報告。貞成久しぶりに行水。
9月29日	称名院にて如法経あり。
9月30日	園宰相基秀に琵琶「村雲」を預遣す。元按察局父禅門土御門陞寂?の物。
10月1日	権野(貞成連枝)、寺(光明庵)に帰る。
10月4日	栄仁、多年に渡り詠んだ歌を撰集するように貞成に命じる。如法経今夜筆立。
10月6日	栄仁、去る三月盡の御歌合の御点勝負に付、お尋ねのところ今日到来。
10月7日	室町殿(義持)大光明寺に光臨。伏見宮御所の事等、長老から言葉添あり。
10月8日	医師昌耆参り栄仁を診察、腰痛・脈は正常との事。栄仁、三位をして当所僧坊田の件を広橋兼宣に仰付ける。
10月10日	伏見僧坊田は往古三御堂供料にあてるも供養有名無実につ勘落(没収)する。
10月11日	法安寺當所安久名の領有、文書にくい違いあり俊阿と訴訟。寺領勘落は不適當。(聞)昨日より興福寺維摩会始まる。勧修寺経興、頭弁として南都へ。
10月13日	三位(田向経良)伏見に移住するも宿所なく、御所近辺に敷地を所望。(聞)上杉禅秀の乱発生。鎌倉公方持氏不意をつかれ駿河に逃れる。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
10月14日	桂地蔵に奉仕の阿波法師等、偽の功德を語るとの罪で幕府に逮捕さる。西岡男の罪は不問。貞成、地蔵の靈験は人力及ばず参詣者絶えずと記す。
10月15日	権野六僧坊の件で伏見宮から仙洞へ院宣申請。院宣発給せらる。
10月16日	(聞)上杉禪秀と足利持氏三島で戦い、持氏敗れ切腹との報。
10月17日	智恩院隆守参る。僧坊田二口の件、広橋から將軍へ安堵の申請。許可される。
10月20日	人麿影和歌御法楽あり。持氏切腹の話は虚説との報あり。情報混乱か。
10月22日	三位新築の屋敷に付、後の為御書(治仁染筆・栄仁袖御判)を賜る。今日で栄仁発願の桂地蔵三ヶ月代参が結願。同地蔵に御堂・鎮守社等建立さるとのこと。
10月27日	治仁、蔵光庵で紅葉見物、順一勾當の平家を聴聞。即成院・行蔵庵にも入御。
10月29日	(聞)足利持氏駿河へ逃れる。將軍評定し駿河守護今川範政等に救援を命じる。
10月30日	故南向百ヶ日。僧坊田の事に付、醍醐寺と問答する。(聞)足利義嗣(義持弟)逐電し高尾に隠居遁世、所領の申請不許可が原因か。
11月1日	絵書僧が近辺にいたので頼んで小野道風の影(元絵頼寿法橋)を模写させる。
11月2日	義嗣將軍の諫めにも従わず。黒衣着用し出家を望むも將軍を恐れて戒師無し。
11月3日	貞成顔拭を鼠に喰破られる。後筆にこれが凶事(大通院逝去)の前兆かと。(聞)三品息女が嫁入り、八幡へ向かう。今のところ周囲には知らせず。
11月4日	小除目あり。大納言・中納言・参議・両蔵人等補任される。
11月5日	義嗣仁和寺興徳庵(絶海中津塔頭)へ移住。野心者の奪取を恐れ警固を付く。同時に遁世した山科教高・裏松持光等は富樫に預けられ野心の有無を糾問さる。
11月6日	貞成連枝恵舜、寶巖院塔頭に移住。御寮と玄経の確執・深草一村代官職の争論
11月8日	春日祭に勾當内侍参向す。頭弁勸修寺経興参向。
11月9日	義嗣落髪し臨光院へ移住。山科教高・裏松持光は加賀へ配流。義嗣処分で畠山満家は切腹、管領細川満元は自重で意見対立。七日関東より援軍要請。花山院忠定没後の相続者無く、一族僧耕雲(南方近衛息)が猶子相続。
11月10日	大教院隆経(田向経良息)伝法灌頂の際の牛拝領のお礼に参る。
11月12日	貞成、十月四日より始めた御所(栄仁)御詠歌の撰集が終わる。医師昌耆、栄仁に灸治する。
11月13日	大光明寺長老の懇請により栄仁御置文(寺領地下樹木伐採停止)を下賜する。
11月14日	粥順事、今日より始める。近衛局が沙汰。
11月15日	明日新造仙洞御所上棟の儀あり。祝儀引物として御馬献上を予定する。長資、勘落の僧坊田の御恩拝領を望み、一部を賜う。
11月16日	仙洞御所上棟の儀あり。御馬に御書(治仁筆)を付け献上のところ後小松院より勅筆返書あり。貞成、上棟の席で後小松院に栄仁親王の容態望み無き事・播州国衛領院宣の件等を直奏する。
11月18日	初雪が降る。順事の薪あり。貞成室今参局、庭田邸内の産所に入る。
11月19日	貞成の室今参局(庭田幸子)、寅刻に女子(阿吾々)を無事出産。
11月20日	蔵光庵主、栄仁親王の臨終を告げる。大光明寺長老、室町殿に葬儀の相談に鹿苑院主と会う。院主は崇光院葬儀の例(栄仁父、観応二年)通り実施と返事。安堵院宣の件で親王薨逝を隠し奔走し六僧坊院宣のみ到来。
11月21日	周乾、故栄仁親王の置文を鹿苑院主に披露。置文には播磨国衛別納分一部を大光明寺へ寄進、葬儀は簡略に、位牌には「大通院無品親王」と記せと記載あり。將軍置文を拝見しその趣旨を認む。茶毘は廿四日と決まる。



「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
11月22日	伏見宮へ皇室・公家・寺院等の各方面から多数弔問あり。
11月23日	夜寅刻に栄仁親王の亡骸を御輿に乗せ大光明寺に運ぶ。貞成、栄仁六十六歳にしてついに登極（即位）ならず生前の御遺恨此一事に在りと記す。貞成、出棺の際に大光明寺長老の供奉無き事に「自由之至歟」と憤慨する。
11月24日	大光明寺にて御茶毘の儀次第を記す（荒松墻・黒木鳥居を建てる）。貞成御茶毘の最中に人魂が棧敷辺から飛んだと後聞く。後筆に治仁王薨去の前兆かと。
11月25日	今朝より御時結番始まる。義嗣反逆の企露見する。赤松与力と白状。
11月26日	故栄仁初七日。形通りの仏事なれども重有等故障申し奉行人なし無念と。
11月27日	栄仁親王逝去による服暇に付、陰陽師賀茂在弘は今月廿七日までと勘申。
11月28日	今日から故栄仁親王追善の法華經書写始まる。貞成は八之巻を担当する。
12月 1日	祝着之儀如形如例。
12月 2日	故栄仁親王の二七日の仏事。左府（今出川公行）より後小松院に報告との状到来。栄仁親王の牛飼童席石丸、主に殉じ出家の為、暇乞いに参る。
12月 3日	貞成、諷経に参った梅津湯陽院主と点心の最中に盃を交わす。
12月 5日	伏見宮より大光明寺仏事に点心料として五百疋遣わす。籠僧担当者で分配。牛飼童席石丸、出家して伏見宮へ挨拶に参る。貞成「老体旁不便」とこれを記す。
12月 7日	故栄仁親王の三七日の仏事。多宝院主（大光明寺前住）等参る。
12月 8日	勧修寺門跡、浄土院の御使として参る。貞成に別に言付けあり。
12月 9日	和気明盛（前典薬頭明成朝臣）参る。
12月10日	故西御方の年忌。斎点心あるも貞成持斎断酒に付、七日忌日には飲まず。
12月11日	法華寺長老光明院宮、頓写（經典）一部・奈良紙を三十五日追善の為進る。新御所（治仁王）・貞成等大光明寺にて焼風呂に入る。関東武衛より戦用の御旗所望に付、世尊寺行豊が旗文字を書く。
12月12日	故栄仁親王四七日仏事。綾小路三位（信俊）申沙汰。
12月13日	崇光院年忌引き上げ。大通院（栄仁）遺骨を深草法花堂へ納める。絶海中津、内裏にて称光天皇に御受衣之儀を行う。
12月14日	絶海中津、称光天皇に「浄印翼聖国師」の国師号を送る。将軍義持、天皇諱「躬仁」の文字に「弓」あるを嫌い、周囲相談して「實仁」と改める。
12月15日	香雲庵主、伏見宮にての点心を沙汰する。
12月16日	陰陽師泰継参る。大光明寺にて三十五日法要を引き上げて行う。青侍良政入道（良圓、貞成旧友）死去。義嗣謀反露見、関東謀反（上杉禅秀の乱）も仕業と山門南都語る。幕府、義嗣幽閉の臨光院の嚴重警戒を命じる。
12月17日	大通院（栄仁）三十五日の法要、椎野沙汰で行われる。
12月18日	良西堂、伏見宮へ焼香に参る。即成院坊主一献持参する。
12月19日	大通院（栄仁）の具足等遺品を取出し諸人に形見分けをする。目録別紙作成。
12月20日	大通院の御月忌始めの仏事行われ治仁新御所等焼香する。夜内侍所で御神楽。
12月21日	大通院六七日仏事を貞成沙汰にて引き上げて行う。岡殿より法華經等布施。明日大通院中陰結願なれども「例日」に付、今夕位牌を大光明寺総塔へ。
12月22日	大光明寺にて大通院御中陰結願。建仁寺前住、心知客（医師）等参る。貞成、今日より三日間持斎断酒する。
12月23日	御仏事として面々入浴する。菊亭から法華經一部、御布施等届く。
12月24日	盡七之儀。早朝より道場の室礼を行う。御位牌を安置し諷経・観音懺法行う。
12月25日	伏見宮にて盡七之儀結願する。大光明寺長老により拈香。六条庁経直（長講堂）参り拈香する。夜、精進明けて魚食する。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
12月26日	三位、御遺跡安堵の件で室町殿へ申請の為鹿苑院へ御使として京へ。陽明局、新御所に見参。勾當局・姫御所・貞成息女にも服を賜る。
12月27日	伏見宮ですす払いあり。三位鹿苑院より戻る、御遺跡の件善処するとの事。姫御所（治仁二女）御魚味・御深剪の祝事あり。三位、孫を抱いて来る。
12月28日	惣得庵主・御寮明元等参る。
12月29日	旧月精進、風呂に入る。新御所治仁、大光明寺へ入御。今参局、産所（庭田）より帰る。貞成、姫宮と会う。
12月30日	勧修寺経直、経興代官として参るも神事の為門内に入らず。治仁門前で会う。大光明寺長老参り治仁新御所の御代始に参る。
年末	貞成、年末に後日の為に宮中雑事・仏事等詳細を記録すと記す。月次連歌、紛失を恐れわざと懐紙の裏に書く。和歌百韻継続の決心。
応永24年	
正月 1日	早朝より新御所（治仁）御方で三觴祝儀あり。仏前で焼香礼拝。（聞）禁裏にて元日の節会あり。内弁三条大納言公量違失ありて嘲笑さるか。仙洞御薬あり、陪膳左大臣（今出川公行）参仕する。
正月 2日	長資朝臣、御所淵酔に出仕。
正月 3日	長資帰参し、淵酔が無事行われたこと、また極臈慈光寺持経が昨年同様位階不相当の五位職事末席に座したことを報告。奉行長澤、御旗を関東へ持参した功績により足利庄千貫之地を賜る。
正月 4日	新御所、年始として大光明寺長老等を招請し中絶していた点心齋食を復活させる。貞成等、今日から旧主大通院四十九日まで精進することとする。元三日は別で魚味。
正月 5日	（聞）今夜叙位あり。執筆右大将西園寺實永、入眼広橋兼宣。清書吉田宰相（清閑寺家俊）。*家俊＝「兼宣公記」24.1/8
正月 7日	白馬節会。内弁は二条大納言持基。他公卿多数出席。
正月 8日	風呂始め。夜、女叙位あり。国母（光範門院藤原資子）二品に叙さる。
正月 9日	旧主大通院の四十九日法要、終日看経する。
正月10日	節分。土御門泰家（陰陽師）、新曆八卦を持参。貞成、曆の持参遅延を責めらるも、泰家陰陽道では立春を年始とすると弁解する。
正月11日	立春。六条庁益直、布衣姿で伏見宮（新御所）へ参賀。貞成別に挨拶する。恒例の酒宴あるも新御所御方では忌中に付、酒宴無し朗詠のみ行う。
正月12日	貞成、新主（治仁）と一献。貞成室今参局・姫宮（貞成長女）今春初見参。
正月13日	大光明寺故法皇の御仏事あり。新主治仁焼香に入御。貞成は参らず。
正月14日	右少弁勧修寺経興参賀。治仁、昨年末の弔問の礼を表す。
正月15日	伏見宮殿上前で三毬杖を焼く。京・地下松拍は停止。
正月16日	貞成、年始に決意の通り持斎。（聞）禁裏にて踏歌節会、内弁は大炊御門宗氏。椎野（貞成連枝）十一日より疱瘡になる、近日流行とのこと。
正月17日	冷泉正永、伏見宮に参る。
正月19日	貞成、自粛していた楽（琴）を密かに弾く。
正月20日	大通院月命日、新主治仁貞成等大光明寺へ焼香に参る。帰路指月庵に寄り治仁・貞成持斎中なるも坊主に勧められ飲酒する。
正月21日	関東から、去十一日合戦で上杉氏憲等敗れ切腹（於雪下）との報あり。京都側勝利、御旗文字を書いた世尊寺行豊には追って勳賞ありとの事。*世尊寺は代々御旗文字を書く家。
正月22日	貞成、雨天の無聊に囲碁・双六を楽しむ。蔭蔵主参り、料所分割を新主治仁に所望する。
正月23日	新主、蔭蔵主所望の所領の件再三申入に付、伏見僧坊田十石分与する。貞成、新主の連日の博奕張行を非難する。將軍義持、山名時熙邸に入御し進物の勳賞に子息（満時）を刑部大輔に。*満時＝「康富記」24.9/25

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
正月24日	貞成、伏見宮御所旧跡を遊覧。帰路蔭蔵主等に勧められ指月庵へ立ち寄り、和漢連句（云捨）あり。
正月26日	三位出京し鹿苑院主と会う。御安堵の件披露のところ將軍承諾との返事。
正月29日	勝阿祐嘗参賀。貞成、勝阿旧冬大通院忌中の際黒衣着用の事で粗忽と非難。
正月30日	貞成、合奏百日まで自肅のところ一人で稽古する。（聞）將軍義持、今春初めて後小松院へ参る。
2月 1日	新主治仁、故休翁庵主年忌で蔵光庵へ入御焼香。禅光御恩拝領の礼に参る。
2月 2日	伏見宮で博奕会あり。連日の張行に貞成、暗に治仁を非難。
2月 3日	夜、庚申待ち。三位、伏見宮の御使として仙洞へ参る（安堵の件）。春日祭。
2月 4日	三位、院の御返事は年末年始で遅れているが、いい加減にはしない旨の報告。（聞）冷泉為尹逝去とのこと。「歌道衰微之基」かと記す。
2月 5日	近衛局（貞成継母）、旧主靈前で今日から七日間百万遍念仏を勤行する。
2月 6日	豊原郷秋今春初めて参り、楽百日まで自肅に付、一人で笙を演奏する。
2月 7日	異様の医師参る。新主治仁以前顔見知りにつ、診察を許し投薬させる。
2月 8日	伏見宮軒端の梅が枯れたので重有等梅の木を持ち寄り、庭に植える。（聞）醍醐と山科の土民確執し、玉櫛禅門が巻き込まれる事件発生。玉櫛これを三宝院に愁訴し同院幕府に訴える。將軍、侍所一色に命じこれを検断する。
2月 9日	鄂隠和尚（鹿苑院主）天竜寺に入院する。やがて引退かと云々。
2月11日	伏見宮新御所治仁王、急死する（37歳）。貞成「大中風」と記す。
2月12日	治仁王御茶毘の事、大光明寺は大通院の仏事と重なるので蔵光庵沙汰と評定。治仁王薨去の事は幕府には戦勝祝賀の時期を配慮して、知らせないことにする。長資は内裏小番で三十日間在京のため籠居できず。
2月13日	治仁王茶毘の件、大光明寺も蔵光庵主も故障申し辞退、貞成嘆く。戒師指月坊主廓首座が髮剃り授戒。位牌に称号は師絶海中津が書道号「松屋」と認める。公行より大原野祭の神事のため弔問できない旨の状あり。
2月14日	御茶毘の件、大光明寺が今回は特例という状を出し、蔵光庵茶毘を了承する。
2月15日	茶毘は陰陽師賀茂在弘の勤進は戌時。夜に密かに遺体搬出。蔵光庵（屋外）にて龕前仏事、山作所で茶毘にふす。茶毘の際、大光明寺僧侶諷経を止める。代々の檀那寺の態度、遺恨を残すかと貞成記述する。
2月16日	大光明寺長老、「帰寺まで治仁の事知らず」とする。実は深草辺で待つ。
2月17日	貞成、御収骨の日なるも雨天にて仏事無し。故治仁王の陪妾今上臈女子を出産する。治仁王には男子相続人無く貞成が伏見宮御遺跡を相続することになる。貞成、伏見宮新主として鹿苑院主の弟子となるよう助言される。
2月18日	治仁初七日。特に仏事は行わず。治仁頓死に付、貞成を疑う噂ありと聞く。
2月19日	貞成の連枝周乾・洪蔭各々の寺へ帰る。連枝椎野、疱瘡の病中なるも入御。
2月20日	住心院僧正、山伏を使いとして弔問する。
2月21日	治仁頓死に付、世間では雷神奪命説と貞成・対御方共謀毒殺説の二種の噂あり。貞成、毒殺説流布は当所地下の野心ある近臣の仕業と記す。賀茂在弘、忌中明け日時を鹿苑院授衣は来る十五日とす。
2月22日	相応院殿、使いをもって弔問する。楊梅兼邦・園前幸相等も参る。
2月23日	故治仁王二七日仏事。来る廿九日の大通院百ヶ日法要に向け今日から三時勤行。石見郷代官（法輪寺）より大通院供養として五百疋。鹿苑院主より御受衣の件了解あり、但し室町殿の同意が必要との返事あり。
2月25日	水無瀬三位入道（法覚）が子息を弔問に遣わす。
2月26日	故治仁三七日の仏事を引き上げて行う。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
2月27日	貞成、蔵光庵に念誦布施として本尊釈迦像・香箱・香台を遣わす。また同庵の僧衆にも御茶毘の布施を遣わす。
2月28日	大通院百ヶ日追善の施餓鬼あり。
2月29日	大通院百ヶ日正忌の仏事終わり、位牌を常御所に安置する。
2月30日	故四七日の仏事を引き上げて行う。
3月1日	前宰相綾小路信俊、遺跡・受衣の事催促の為に鹿苑院へ向かう。
3月3日	桃花の節句の宴あり。
3月4日	故治仁王五七日の仏事を引き上げて行う。御受衣の件は將軍義持の伊勢・八幡参詣の後に披露とのこと。伏見宮御遺跡相続・虚名（貞成毒殺首謀説）弁明の件で後小松院に使いを派遣する。
3月5日	貞成に係る治仁殺害の噂（虚名）につき、院は疑惑を持たずとの返事。（聞）関東公方・諸大名から合戦（上杉禅秀の乱）合力のお礼に進物が届くとのこと。
3月9日	故治仁六七日の仏事を引き上げて行う。
3月10日	（聞）室町殿（將軍足利持氏）、石清水八幡宮へ参詣。
3月11日	貞成、遺跡相続・虚名解消の祈祷の為青侍を北野社へ派遣する。
3月12日	故治仁の位牌称号「葆光院天範街公禅定尊」と治定する。
3月13日	大光明寺へ葆光院の遺骨を納める。
3月14日	明日は葆光院御中陰につき早朝から写経。夕方には道場の室礼をする。
3月15日	葆光院盡七の儀あり、無事申陰結願する。大光明寺でも形通り執行される。
3月16日	貞成、風呂に入り、夜は前宰相綾小路信俊と閑談する。
3月17日	貞成、四弦伝授の件で院へ申し入れたところ、返事保留。秘曲御奥書を遣わす。また、源宰相（綾小路信俊）に大通院遺物の神楽笛・葆光院の硯を与える。
3月20日	貞成、葆光院陪妾今上臈と姫宮（2/17日誕生）に初めて対面する。
3月21日	遺跡の件、院より許諾あり、御文をもって申込むべしとの勅定。虚名の件については以後御前にて口遊せぬように仰せられた。
3月22日	貞成、御手本櫃（新古梵字）を開き目録と校合し中に重有の所持本あり返却。三位以下、行蔵庵での花見会に行き、その後乗船魚釣りを楽しむ。貞成は不参加。
3月23日	三品が鯉を持参したので賞翫する。門前の馬場で花見。
3月24日	遺跡の件將軍の了解を得る事、鹿苑院に受衣の件で使いを派遣する。貞成、使いに硯箱と「近思録」五巻を遣わす。賽を打つ。除目初め。*「世間流布事」。
3月26日	貞成、御所旧跡に遊び、不動堂遠見の所で酒宴。鹿苑院より安堵の件で返事あり。朗詠・乱舞など楽しむ。除目入眼。
3月27日	葆光院の遺品の中に貞成を猶子として扶助する旨の大通院の文書あり。
3月28日	長資に妙音天絵像一幅を与える。後小松院、体調を崩すとのこと。
3月29日	葆光院盡七の儀、精進看経。大通院の御産常御所（終焉場所）の板敷を清浄のため鉤をかける。二日の大般若経転読のために道場を洗浄。（聞）後小松院の体調やや回復。端午の続命縷の時節可否を將軍に伺い許可をもらう。
4月1日	朔日。
4月2日	葆光院盡七の供養祈祷として大般若経転読あり。貞成、次第を記す。後小松院御悩により泰山府君祭を土御門泰家宿所で行う。*文保元年七月十七日前例
4月3日	貞成、梨花の箏（甲部は花梨木、破損甚）を仙洞へ進めることを決める。
4月4日	貞成、前宰相の去二日の諫めを受け、楽・朗詠の稽古をする。
4月5日	貞成、仙洞へ書状と梨箏を遣わす。貞成、大光明寺の当所管領分に付、大通院（故栄仁親王）置文に書き加えて遣わす。
4月6日	後伏見院聖忌の仏事法事譚事（三福寺当番）に供養料を下行する。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
4月7日	貞成密かに庭田庭で花見。左衛門督（裏松豊光）伊勢参宮土産をもらう。
4月8日	芳徳庵より陽明局（義母）へ和歌到来（書状）。貞成返歌する。楽あり。長資、楽の稽古をする。
4月9日	前日の返歌（予）につき芳徳庵よりまた返歌。
4月11日	前（源）宰相が院（後小松）の返事（御筆受領の由）を持参。夜、楽あり。
4月12日	早朝より楽有り。昼にも楽有り。宰相稽古。盃酌源宰相申沙汰。
4月13日	豊原郷秋参り、楽有り。前（源）宰相帰る。
4月14日	先月治仁死去により延期の御香宮猿楽あり。楽頭丹波猿楽大法師。
4月15日	結夏精進。今日から三日間泊瀬（長谷）に立願のこと。昨日同様、御香宮猿楽あり。河原院御堂焼失する。近年この聖天の靈験あり、人々群参する。
4月17日	賀茂祭あり、典侍は中山中納言息女。椎野より琵琶「孔雀」を取り寄せるも散々に破損。今夜亥刻、京都六角町焼亡。
4月19日	風呂に入る。晩に楽あり、妙音天に奉ずる。
4月22日	三位を使いとして鹿苑院へ遣わす。専首座（比丘尼）参り、栄仁の遺品を一つ賜う。
4月23日	楽あり。長資相伴する。使の三位帰る。鹿苑院、將軍に受衣の件披露のところ問題無しとの返事。
4月26日	後圓融院廿五年忌の為、安樂光院にて御経供養あり。乾蔵主、高野山に参詣し栄仁・治仁遺骨を納骨との事。冷泉前大納言為尹息為之、後小松院に初参。
4月27日	楽あり。景清・郷秋・敦秋参る。三位不参。
4月28日	大光明寺預託文書櫃を取り寄せ、將軍への進物選定。石帯・御手本
4月29日	貞成、將軍への進物として石帯が適当か菊弟左府に指南を乞う
4月30日	椎野より琵琶を取り寄せる。又散々に破損していた。
5月1日	朔日。
5月2日	貞成、鹿苑院へ使い（三位）に將軍への進物を持たせて派遣する。（聞）等持寺八講（義満供養）今日から始まる。*「後崇光院御文類」21号
5月3日	三位、鹿苑院への使いから戻る。院主は進物を明日將軍に見参に入るとの事。
5月4日	早朝より伏見宮へ桧皮葺参る。菖蒲で軒を葺く。貞成感慨ありて歌二首。貞成、將軍へ薬玉を進呈する。菊呈より菖蒲根・枕等届く。禅啓、法体でありながら備中守任官を所望し補任さる（山名の力か）。
5月5日	端午の節会。貞成、入浴する（菖蒲湯か）。
5月6日	等持寺八講結願する。
5月8日	貞成、一条辺で酒屋下女が、古狸が化けた犬に追われる話を聞き記す。
5月11日	鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。
5月12日	三位、鹿苑院より戻り將軍への進物の件、安堵の件、播磨国衙の件を報告。
5月16日	貞成、持齋する。伏見宮の面々、双六に興じる。
5月17日	伏見宮に安一座頭（千一座頭の弟子）参り、平家を申す。
5月18日	来る二十二日は葆光院百ケ日につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。
5月19日	寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一（座頭）参り平家を申す。
5月20日	安樂院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。
5月21日	安一参る。道場で平家等を申す。
5月22日	葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。
5月24日	地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。
5月25日	貞成、鹿苑院と広橋（仙洞申次）へ催促の為に三位を使いとして派遣する。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
5月26日	昨日、一座百韻（連歌）を終える。
5月27日	豊原郷秋参り楽あり。三位使いから戻る、安堵の件いまだ執奏なしとの事。將軍義持、二十日より北野社へ参籠。
5月29日	豊原郷秋参り、楽あり。
閏5月 1日	朔日。三位宿所に厩を造作。
閏5月 2日	貞成、宇治川（月見岡下）に白龍現れ草刈の小童を巻き上げるとの噂を記す。豊原郷秋参り楽・朗詠あり。
閏5月 3日	玉櫛禅門借りていた「平戸記」を返却の由、二条持基が申し出る。
閏5月 4日	仙洞より御所到来。内容は梨箏の礼、文永三年十一月御移徙御記の書写依頼。
閏5月 5日	貞成、即成院に預置の櫃を取り寄せ後深草院御移徙御記を選出し書写する。去る二日、真修院（崇光院仕女、相応院や入江殿今御所等の生母）寂す。
閏5月 6日	後深草院御記一卷の書写出来、仙洞へ進呈する。他の部類記も併せて申出る。琵琶（仙洞）修理のため菊亭へ遣わす。
閏5月 7日	仙洞より御書にて部類記の依頼あり、御移徙部類記・御次第を進呈する。
閏5月 8日	貞成、指月庵に行き大光明寺長老と乾蔵主の前燈祿談義を聴聞する。
閏5月 9日	貞成、伏見地下輩の流行病退散祈祷の為、法安寺良明房に仁王講を読ましむ。伏見宮にて男女が賽を打つ。
閏5月13日	（閏）十種香を懸物にて闘わす。椎野が盃酌を張行したとの事。
閏5月14日	伏見宮臺所にて毎年恒例の雲脚茶会（順事）を始める。御所旧跡の石を退蔵庵が引き取る、但し瀧頭石は引き取りを許可せず。
閏5月16日	台所順事茶、行蔵庵で行う。後聞、茶順事ではなく寿蔵主の別の張行。貞成、大光明寺へ御記以下の櫃十二合を預ける。
閏5月17日	貞成、昼頃から病惱、瘧病を疑う。十五日にも「違例之気」あり。
閏5月18日	貞成、未明より瘧病発作あり、その後治まる。
閏5月19日	貞成、法安寺良明房瘧病加持をさせ、弘法太子御筆の濯水を飲む。
閏5月20日	貞成、退蔵庵僧が瘧病を算で落とすといふので年齢・発病日を書き遣わす。
閏5月21日	明け方に良明房参り加持。退蔵庵僧も算を行うとの事。昼再発、夕方醒める。
閏5月23日	良明房参り加持する。今日は発作なし、加持のおかげか算の効験か。
閏5月25日	貞成、入浴する。体調違例回復する。
閏5月26日	（閏）北大路辺で強盗騒動ありとの事。
閏5月27日	夜前、即成院に強盗数十人が入り衣装具足等奪い取る。預置の記録櫃は無事。近衛局の腫れ物平癒する。医師（大光明寺僧）に祿を賜る。御茶順事、御所様頭役に付、召さる。
閏5月28日	將軍義持、後小松院仙洞へ参る。御茶順事、御所様頭役に付、召さる。
6月 1日	貞成、早朝に愛染王堂に参詣、その後船遊びする。船上で云捨の歌会等あり。
6月 2日	即成院強盗事件で伏見庄地下一庄、殿原・寺庵人供行者・土民等すべて御香宮の宝前で起請文を書かせる。
6月 3日	貞成、体調良く楽・朗詠等催し酒宴。
6月 4日	早朝より楽あり。秘蔵の名笛（「王餘魚」）を綾小路信俊に貸与する。
6月 5日	早朝より楽あり。台所順事茶満散する。
6月 6日	楽あり。（閏）後小松院、新造仙洞御所へ来十九日に遷幸との事。よって今夜より妙法院宮（堯仁法親王）が鎮宅法を行うとのこと。
6月 7日	祇園会始まる。関東使節がこれを見物したという事。田向長資、鎮宅法の指燭役として出仕する。
6月 8日	今出川宰相中将公富、中納言に昇進との事（6/7付）。
6月 9日	貞成、菊亭へ公富昇進の祝儀を贈る。長資鎮宅法の指燭役に布衣で出仕。
6月10日	長資戻って、鎮宅法の儀の様子（指燭役は殿上人六人等）を語る。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
6月11日	香臺寺の風呂に入浴する。これ大通院の代に年一度恒例のもので当代初めて。今出川公行より、公富中納言拝任に付、仙洞御移徙の供奉勅許ありとの状あり。*文永三年の西園寺供奉の例。
6月12日	三位、御酒海苔等持参し御前舟水に入れる。これ恒例なり。
6月13日	即成院強盗の件で、三木三郎舎弟次郎が三郎の仕業と白状する。
6月14日	船水納涼の順事あり。強盗事件の嫌疑に付、三木善理無関係と主張する。
6月15日	強盗事件で白状人次郎を侍所へ召還する。三木善理は明日に延期。
6月16日	強盗事件の容疑者有慶・次郎、侍所（一色）へ出頭、三郎は出頭せず。三木善理以下、松原無垢庵に集結との報あり、召し捕らえるべしとの評定。貞成、三木三郎は畠山被官人である点をを配慮して穏便な処置を希望。
6月17日	三木三郎等出奔。沙汰人等、関係住宅を焼却するも善理宅は猶予する。
6月18日	善理管領の無垢庵、検断放火は免れ關所として即成院（被害者）へ寄進。善理一件、畠山へ伝えたところ立腹とのこと。伏見宮の門車突が遺体搬送で穢れたので大工に取り替えさせる。
6月19日	後小松院、新造仙洞御所（東洞院）へ御移徙御幸あり。供奉人散状は別記す。水火童・黄牛等あり。文永三年十一月の富小路御移徙の先例を踏襲する。
6月20日	恵舜蔵主（大通院宮）寂す。触穢を恐れ没所寶蔵院塔頭から密かに遺体搬出。畠山、三木善理の処分に対して立腹とのこと。
6月21日	三木善理没落により伏見庄下司職半分を退蔵庵に安堵契約。
6月23日	貞成、仙洞へ御移徙無為を賀す状を送る。將軍へも同じく送る。（聞）今夜仙洞にて仁王講が行われるとのこと。
6月24日	貞成、三木關所の半分を三位へ与える。
6月25日	貞成、三木關所の内、一部を蔵光庵に寄進する。
6月26日	先日の即成院事件のことで富樫兵部大輔（侍所）へ三位を派遣。三条公雅、伏見宮へ参る。恵舜（貞成連枝、公雅の養君）弔問のためとか。
6月27日	三位、富樫（侍所所司代）より戻る。盗人關所の件將軍に披露するとの返事。
6月28日	貞成、三木關所の一部を慶寿丸へ安堵する。
6月29日	貞成、三木關所の内、善理に押領されていた名田を元の地下輩に安堵する。
6月30日	貞成、服暇中の六月祓につき賀茂在弘に尋ね、問題無しということで行う。仙洞より御移徙祝賀の状の返書あり。蔵光庵主關所寄進の札に参る。今出川公富嫡子（二歳、母は故長頼息女）死去する。*公富息=23.1/22生
7月 1日	貞成、綾小路信俊に三木關所下地を与える女房奉書を遣わす。夕方に乾蔵主の招請により山崎超願寺へ行く。
7月 5日	貞成、法安寺へ宸記等の重書の入った文書櫃十七合を預ける。
7月 7日	七夕の梶葉法楽を服暇中により略して行う。新仙洞で御花合あり。
7月 8日	于蘭盆看経、舜蔵主（恵舜）の忌中につき楽無しで行う。仙洞での七夕御楽・花合の席上、中院光相が布衣姿での列席事件を記述。
7月12日	豊原郷秋、再度貞成に左府公行の推挙状をもって三木關所を所望する。
7月13日	陽明局、京へ墳墓参りに行く。寶蔵院塔にて施餓鬼あり。
7月15日	蓮供あり。貞成、大光明寺施餓鬼聴聞に行き夜に石井念仏拍物を密かに見物。
7月16日	聞、陰陽師土御門泰家他界する。「権威富貴者也」。
7月19日	明日故南向（今出川公行母）一周忌に付、布施す。左府十五日より三日病。無垢庵下地田を惣得庵に寄進。（聞）称光天皇廿三日に仙洞御所へ行幸、廿八日舞御覧の予定。昌訓小庵跡の井水辺で納涼。正永に昌訓小庵を安堵。
7月20日	廿四日地藏講を引き上げて行う。貞成、連枝権野殿の所望により料所割分。無垢庵屋敷は行蔵庵に法安寺薬師灯油料は三位に返付を仰せる。今夜、田向で燈爐供養ありとのこと。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
7月21日	豊原郷秋参り楽あり。長資、三日病重く参加せず。
7月22日	豊原郷秋祇候し楽あり。
7月23日	称光天皇、後小松院新造仙洞御所へ御幸あり。長資病を押して供奉する。
7月24日	廿八日の舞御覧を長資所望するも三位所作の予定に付、許されず。
7月25日	長資舞御覧所望の為、豊原郷秋を師範として万秋楽秘局を伝授する。
7月26日	(聞) 将軍義持、院へ参り順御茶事の頭役として申沙汰する。今出川左府重態。
7月27日	貞成、院・将軍への八朔の進物、服暇中に付その可否を諸方に尋ねる。
7月28日	仙洞御所にて舞御覧あり。左府病欠、長資は所望すれども許可されず不参加。
7月30日	貞成、重有を使者として今出川左府公行の病氣を見舞う。
8月1日	八朔。貞成、進物を将軍・院ほかへ献ずる。
8月3日	将軍より八朔の進物のお返しが届く。菊亭（今出川）より三日憑。
8月4日	前宰相綾小路信俊参り御憑の進物を献ずる。将軍お返しの小袖を女中に分配。
8月5日	楽あり。長資、舞御覧の勅許が無かったことを恨み笙をさしおくとて不参加。
8月6日	秋期彼岸の初日。蔭蔵主参り僧坊田を葆光院に今年から割分する件懇請する。
8月7日	楽あり。貞成、蔭蔵主に僧坊田を一期知行すべしとの状を発給する。
8月8日	綾小路信俊、板輿用材を所領美濃加納郷より取り寄せ、貞成に寄進する。
8月9日	時正（彼岸）中日。大光明寺長老、鹿苑院への法号催促の書状発行を要請。
8月11日	善理後任として御香宮神主職に善国（御所侍）が補さるも、善理が神田を沽却したため神主職の維持継続が経済的に困難なため辞退する。
8月12日	時正（彼岸）結願する。将軍義持、石清水八幡放生会上卿役として下向する。
8月13日	長資、放生会次将（定役）として八幡へ参る。
8月15日	石清水八幡放生会、将軍義持を上卿役として嚴重に執行される。貞成、名月を見て連歌一折張行する。
8月17日	名月に付、連歌一座あり。
8月18日	貞成、御所旧跡（伏見）で椎拾いを楽しむ。
8月19日	三位、筑前国住吉本社領家職の件申入れ、貞成より奉書を賜う。
8月21日	貞成、三日病に臥せる左府公行に見舞いとして滋養の魚、鯉・鱸等を遣わす。
8月22日	貞成連枝権野殿、僧坊田分与を謝し酒宴を催す。貞成、双六の際に伏見宮に届いた八朔進物の一部を懸物として出す。
8月23日	権野殿、寺（光明庵）に帰る。
8月24日	将軍義持、南都へ下向する、しばらく逗留とのこと。御香宮神主職後任の件、善國了承し補任される。
8月25日	退蔵庵主参り、伏見庄下司職半分（広時契約）の安堵奉書を寺家に賜う。
8月26日	貞成、去船順事を沙汰する。侍所所司代より三木善理を来月一日の御香宮祭礼の神事を勤めるために帰すとのこと。貞成、将軍南都下向中の沙汰に付、不審感をいなく。*「中央之儀」。
8月27日	貞成、昨日の所司代よりの状に対する返事を三位に届けさせる。
8月28日	貞成、即成院に預置の文書櫃を取り寄せ目録校合する。三木闕所小芹河小田の下地を名主職の地下輩に宛行うも代官永藤違乱が問題となる。*紙背145号
9月1日	南都から鹿苑院の書状あり。御香宮祭礼は三木善理にて神事を行うべしとの将軍の仰せを伝える。
9月3日	貞成、瘡病の発作。将軍義持、南都からの帰途大光明寺に立ち寄る予定云々。
9月4日	貞成、鹿苑院と侍所所司代富樫等に目安（処し方）をもって申し入れる。



「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
9月5日	貞成の瘧病発作を退蔵庵の僧が秘術により落とす。
9月6日	三位が鹿苑院・富樫等への使いから戻る。貞成は善理一人を除き他の輩の帰住は認めない考え。安一座頭、伏見宮へ参り平家雑芸等を申す。
9月8日	御所門狭小に付、御香宮祭礼の神幸路を田向宿所経由とし、棧敷を設ける。重陽の節句の備え菊に綿を着せる。
9月9日	重陽の節句。御香宮祭礼、三木善理子息と新補神主善國が同席し供奉する。貞成、今日より百日の間、四弦・音曲・和歌等の稽古を始める。
9月10日	伏見宮に師子舞参る。夜、山田宮で猿楽あり。將軍義持、石清水八幡に今日より七日間参籠する。
9月11日	法安寺と権現にて猿楽あり。貞成、密かにこれを見物する。將軍より三木の件に付、善理以外の者の帰住は認めない旨の仰せあり。六条庁（長講堂）益直参り、播州国衙検注の件で子細を貞成に尋ねる。
9月13日	貞成、遊山に出かけ、松原辺で猪口（茸）をとる。名月鑑賞の連歌一折あり。*「看」卷二紙背 懐紙二
9月14日	播州國衙検注を奉行勸修寺経興に命ずる。楽あるも長資いまだ笙を奏さず。
9月15日	將軍義持、石清水八幡に参籠する。舞秘曲法楽あり。播州国衙検注の件、勸修寺経興奉行として承諾する。信州五ヶ庄を山科教興が院宣ありとして押領する、よって停止を院に奏する。
9月16日	將軍義持、石清水八幡へ下向とのこと。播州国衙検注の件で奉行勸修寺経興に令旨を発給する。年預は未補。三木闕所小芹河小田を永藤が違乱しているので一献料を遣わし停止させる。
9月17日	廿二日に三位・重有・長資等が伊勢参宮するということで貞成餞別を贈る。
9月18日	地蔵講あり。参宮の面々廿日より精進屋に入る貞成服暇に付御所に祇候せず。將軍義持が伊勢参宮。將軍の諸社参籠頻回に付、何の御願かと世人の風評。
9月20日	正永参るも貞成服暇中に付、御所には入らず直接精進屋（善國家）へ入る。
9月22日	伊勢参宮の面々出発する。貞成所願成就のため代官を派遣する。鹿苑院主、近所蔵光庵に来たため貞成が伏見宮へ招くも將軍への遠慮か応じず。
9月23日	將軍義持参宮より下向。伏見宮では楽あり。
9月24日	兼ねてからの約束により菊亭（今出川）より松・石を取りに来る。楽あり。
9月25日	貞成、楽・朗詠を稽古する。後深草院・伏見院・崇光院勅書を鑑賞する。
9月26日	楽・朗詠等あり。
9月27日	楽あり、貞成朝夕稽古に励む。
9月28日	早朝より楽あり、貞成稽古に励む。
9月29日	楽稽古あり。將軍義持、真乗院御比丘尼を景愛寺長老に請い入院を強いる。
9月30日	伊勢参宮の面々下向する。地下輩、宇治木幡で坂迎えする。坂迎えの帰路、源宰相（信俊）意識不明に陥り御子の祓いなど様々処置する。
10月1日	伊勢参宮の面々より土産をもらう。綾小路信俊、病氣本復し参る。
10月2日	伊勢参宮の面々、餞別のお礼に酒宴を沙汰する。播州国衙別納検注分を御恩として分与する。令旨を重資が執筆する。
10月3日	伊勢参宮坂迎の還礼を行蔵庵で行う。堂上・地下人同席で座混乱する。
10月4日	早朝より楽あり。伊勢名物等を少々分与する。
10月5日	貞成、蔵光庵の紅葉を見物する。一山墨跡（二補）を返却する。後に指月庵に行く。寿蔵主より伊勢土産をもらう。今夜は亥子。
10月6日	芝殿が参る。（聞）今日から北野一万部御経が始まる。
10月8日	夜急に大光明寺長老が参り去春から所望の鹿苑院主の衣鉢法号を持参する。
10月9日	貞成、大通院一周忌が近いので今日から法華経一部の書写を始める。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
10月10日	貞成、三位を使節とし鹿苑院へ衣鉢法号のお礼に馬（代五百疋）を進呈する。三条公雅が伏見院宸筆を所望につき詩歌・仮名源氏詞写本を遣わす。八雲抄を借用願につき貸与。頭注密勘一帖を返却。芝殿以下参宮へ出発。
10月11日	三位、鹿苑院への使いより戻る。院主留守、よって祐蔵主へ預ける。
10月13日	鹿苑院祐蔵主より献馬の礼状が届く。大工源内次郎が琵琶の修理をする。以前に修理して菊亭（今出川）へ遣わす器。
10月14日	新御所御方と持仏堂を障子で仕切るように室礼する（大工源内次郎担当）。貞成吉服の時期を以前信俊が尋ねたところ来月中にとのこと、日時勘進は追って沙汰。禁裏で廿九日より御笙始め。足利義量、来月元服とのこと。
10月16日	入江殿今御所より法安寺田知行の件で「一円知行」として伏見宮に返還要求。貞成、伏見宮分の一町返還要求に多年無沙汰で今になってと迷惑。
10月17日	承仕明盛が室町院領武蔵堀池を後小松院へ直に所望し策動する。同地は永圓寺に寄付の他、預所職は勝阿であり、この訴訟は不義の至りであると。
10月19日	参宮の面々無事戻り、当所権現で坂迎えをする。
10月20日	番匠（源内次郎？）を召し、持仏堂の室礼を直させる。回忌法要準備か？
10月21日	三品、入江殿へ参り法安寺田事に付、伏見宮の意向を伝える。法安寺良明房、内々に住持職の補任を求め、よって貞成、女房奉書を下付する。 *十一月四日条関連。
10月22日	左府（今出川公行）御所旧跡の石を所望に付、大石五つを遣わす。仙洞祇候の別当局より明盛が院に武蔵堀池の件で御口入申請の動きと報告。
10月23日	貞成、菊亭より石を取りに奉行として来た旧交の御所侍父子と再会。三品、入江殿で法安寺田知行証の応永三年法皇發文書を見る。同三月に五辻教仲・六月に真修院に下付。真修院の文書が後判で「常法」では有利か。
10月25日	伏見宮に初雪。真乗寺比丘尼御所が將軍義持の援助で景愛寺へ御入院。今日から石清水八幡で三日間法華経奉読。北野社万不部経衆千口参加。將軍の御願。
10月26日	豊原郷秋、伏見宮に参り楽を行う。
10月27日	豊原郷秋、伏見宮に参り楽の稽古を行う。
10月28日	三品の宿所造営の事始め。敷地は寶巖院管領地。この地は以前大通院より拝領。賀茂在弘吉服日時を十一月廿二日と勘進。入江殿へ法安寺田一件で使いを派遣。 *前年十月十三日・同廿二日関連。
10月29日	恒例の薪順事、今夜から御湯殿上であり。各々くじで結番。亥子。
10月30日	入江殿に今年～明年は三分一、以後は全部返還という条件を伝えるが承諾せず。
11月 1日	貞成、椎野に預けていた落躰面一つを取り寄せる。
11月 3日	薪順事あり。（聞）崇賢門院（後光厳天皇后宮）が院仙洞へ御幸。將軍も院へ。
11月 4日	法安寺住持職良禪中風で重態、よって良明房同職相続。存命中に安堵を願う。
11月 6日	良明房安堵を奉行三位書下す。良明房お礼に一献持参。
11月 7日	初雪積もる。貞成、初雪恒例の酒宴。田向三位、新宅造作の間庭田へ移住。
11月 8日	貞成、大通院一周忌の為、今日より精進潔斎。
11月 9日	勾當局、今伊勢参詣のついでに伏見宮へ参る。音曲・酒宴。
11月10日	勸修寺経興、国衙検注事は大凶作により年貢収納無しと書状。
11月11日	勾當局が今日帰るので酒宴・乱舞。（聞）今出川公行が實富・公富に楽を伝授。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
11月12日	法安寺田の事、今年明年半分、以後は全部（一円）の条件で入江殿承諾するも永代か一代限りかでまだ紛争。貞成、大光明寺長老に対し三木善理神職復帰につき闕所拝領地の返還を促す。
11月13日	周乾、大通院仏事の相談に参る。貞成は仏事中は退席せぬよう言われる。大光明寺長老徳祥の天龍寺登用の文書到来とのこと。田向く新邸の立柱上棟の儀あり。
11月14日	大通院一周忌仏事、今日から始まる。貞成、次第を詳細に記す。仏事料として播州国衙役を奉行勸修寺経興に催促のところ国大損亡として洩る。
11月15日	椎野殿（貞成連枝）より大通院供養のための自筆筆写の法華経一部を賜る。（聞）仙洞御所で月次御楽あり。
11月16日	綾小路信俊、大通院法要の講演・楽奏者等の依頼状況を報告。大光明寺長老徳祥、急きょ天龍寺に入院のため貞成に会って暇乞いできず状で挨拶する。
11月17日	仏事料の件で奉行経興に再三催促するも沙汰せず。饑法講での楽を稽古する。田向経良・長子父子、饑法講での所作を断る。
11月18日	貞成、三位（経良）に書状で饑法講所作を促す、父子承諾する。貞成、饑法講次第を詳細に記す。経興、播州国衙役奉行として沙汰催促に応じる。
11月19日	貞成以下各寺庵に配分して法華経の頓写を行う。齋・点心、楽あり。大光明寺長老職徳祥後任に文鼎和尚（万寿寺前住）が入院する。椿一検校参り平家を語る。その後御湯殿上で薪順事あり。
11月20日	大光明寺から御仏事料が贈られる。長老以下招請するも不参。椿一、道場で平家を申す。貞成写経するも間に合わず外題のみを供養する。奉行経興、仏事料二百疋（播州分）を納付。六条庁（長講堂）益直代官経直参る。
11月21日	大通院の仏事が無事終わる。貞成入浴洗髪する。椿一平家を語る。
11月22日	除服無事に明け、吉服の儀あり。貞成大儀を終え酒宴で酩酊する。
11月23日	御湯殿上で薪順事あり。貞成長女が頭役。連歌あり椿一も参加する。椿一、平家を申す。長資は禁裏小番のため出京する。*「看」巻二紙背懐紙一
11月24日	綾小路信俊、役目を終えて伏見宮を退出する。椿一も退出する。夜に連歌。
11月25日	玉串が退出するので大通院秘蔵の文殊像一補を遣わす。貞成孔雀琵琶を弾く。
11月26日	薪順事。三木善理、公人を使に財産の返付を求める。上意というのが証状なし。
11月28日	一筆法花経（書写）を大光明寺御廟前に奉納する。三位、新造宿所未完成なれどもこれに移る。菊亭より室町院領河内国高柳庄の押領を企てている者ありとの知らせ、よって貞成、応永廿三年十月九日付の令旨を作成する。
11月29日	前宰相より明盛が武蔵堀池を所望する由、仙洞より仰せあり。（奉書案文）
12月 1日	將軍義持子息足利義量加冠元服する。
12月 2日	武蔵堀池の件、返事する。陰陽師賀茂在弘、歳末年始の勘文を進る。
12月 3日	貞成、武蔵堀池の件で菊亭（公行か）と相談する。
12月 5日	貞成、若君（義量）元服の祝儀賀状を將軍へ送る。今月十三日は参内との事。庭田重有、風氣退散せず陰陽師に尋ねるとのこと。長資の妻、女子を出産する。
12月 6日	貞成、御香宮・山田宮・権現等参詣し自ら筆写した般若心経を三社に奉納。三位、足利義量元服の儀より戻り、その様子を貞成に語る。
12月 7日	薪順事。重有風氣にて重熊、子息慶寿丸（重賢）流行を恐れ宿所を隔離する。貞成、豪融僧正・栄仁親王（故人）・治仁王（故人）と連歌する夢を見る。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
12月9日	賀茂在弘の勘文に従い、伏見宮ですす払いを行う。薪順事あり。今夜より三日間、田向（経良＝三位）新造宿所で不動供あり。庭田重有本復する。
12月10日	故西御方（生母）の年忌の仏事あり。
12月11日	豊原郷秋参り、楽あり。
12月12日	綾小路信俊、武蔵堀池預所職を明盛にとの院奉書を持参し貞成に任命を迫る。貞成、院の意志につきやむを得ず明盛に女房奉書を与え預所職を命じる。
12月13日	武蔵堀池預所職の前任者勝阿、院の御口入につきやむを得ず諦める。貞成息女二歳となり髪置の儀を行う。若君足利義量、参内し、ついで仙洞へ参る。大光明寺前住徳祥、天龍寺に入院する。
12月14日	將軍足利義持に伴われて子息義量参内し、次に仙洞へ参る。
12月19日	賀茂在弘、伏見宮へ新曆二卷八卦等を持参する。貞成、百日稽古結願する。
12月20日	貞成、大光明寺に焼香に参る。指月庵にも参る。天龍寺徳祥、大光明寺長老時のお礼に参る。兄も鎌倉建長寺長老就任とのこと。
12月21日	芳徳庵（主）参り、和歌を詠む。
12月22日	薪順事。節分。
12月23日	立春佳節。明盛預所職任命以後、はじめて伏見宮へ参る。法安寺良禅入滅する。遺跡は良明房が付属されているとのこと。
12月24日	貞成、伏見庄田一反を退蔵庵に寄進する。薪順事。
12月25日	貞成、歳末礼の書状を仙洞へ送る。
12月26日	治部卿経時参り、大通院との兼約と申し室町院領備中国大島保を一円知行仰せ付ける令旨の発給を申請する。よって貞成、令旨を与える。
12月27日	室町殿へ関白以下諸門跡が歳末礼に群参する。天皇貢馬御覧とのこと。
12月28日	貞成から將軍への書状には関白の例に準じ「誠恐謹言」と書くべしと。
12月29日	甘露寺前大納言、伏見庄内延光名主職を叡山承操に返付を申し入れる。土御門泰継が新曆を持参する。菊亭より書状あり。
12月30日	歳末の挨拶に各寺庵の僧等参る。勧修寺経興、播州国衛の年貢を持参する。
応永25年	
正月1日	早朝より三觴祝儀。（聞）節会。院御菓。拝礼。御菓。親族拝。
正月2日	（聞）貞成、院御菓（淵酔・出歌）の担当者を記す。三寶院車宿焼亡。
正月3日	院御菓。
正月4日	千寿萬歳、伏見宮に参り祝言を申す。長資、三木關所小田の件で源宰相と不和。
正月5日	伏見宮で音楽始め。（聞）叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。
正月7日	強飯。夜、地下殿原衆松拍参り、種々異形の「物学」を行う。（聞）白馬節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。
正月8日	御湯始め。大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。
正月9日	惣得庵主・御寮明元、御寮雪を持参する。これを鑑賞し酒宴・音曲。
正月11日	貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って齒固めの儀行う。地下輩を召し猿樂を見物する。屬星祭御祓など行う。
正月12日	貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。
正月13日	町経時・六条庁益直参賀。大光明寺（長老）、崇光院忌日に付焼香に参る。
正月14日	長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。
正月15日	御粥・強飯。三球杖を焼く。地下（石井・山村・船津）松拍参り種々風流。
正月16日	貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に將軍・鹿苑院への書状・賀礼を託す。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
正月17日	楽あり。長資、京より戻り相応院の賀書等を渡す。
正月18日	郷秋参り楽稽古あり。前宰相壽憤ありて不参、再三の召しにようやく応じる。
正月19日	早朝より楽あり、終わって前宰相帰る。長資、八幡社へ参詣。
正月20日	大光明寺長老等、焼香に参る。勘解由小路三位入道、賀礼に参る。
正月22日	徳大寺右衛門佐、土産を持って参る（貞成と旧交ある人物か）。
正月24日	貞成、雨天に付、双六を打って過ごす。
正月25日	(聞)義嗣、逃走を企てるも加賀守護山川舎弟に討たれ「頭」は侍所所司代富樫から等持寺へ。寺家・義嗣旧宅は放火、義嗣の子息は伊勢宿所へ。去る廿日に陰陽師(安倍)晴了が「兵革瑞」と占う、よって討伐を急ぐ。
正月26日	貞成連枝権野殿、土産樽等持参する。
正月27日	貞成、御所旧跡月見岡辺で野遊び。その後船遊びし酒宴。
正月28日	貞成茶会を張行する。足利義嗣の子息死罪を免れ泉涌寺喝食となる。
正月30日	和歌短冊を配り来月三日に和歌披講。双六会を催し貞成が勝つ。
2月 1日	貞成、松山に遊山し松を堀取り庭前に植える。
2月 2日	茶会(順事回茶)。(聞)明盛法橋去廿二日に六条殿預、子息は後戸に補さる。
2月 3日	明盛子息千代寿(盛賢)・梅寿(快賢)仙洞より名字を賜る賀酒振る舞い。
2月 4日	田向にて茶会あり。
2月 5日	三十日に出題の和歌を披講する。左府今出川公行、広橋兼宣聖廟法楽に和歌勸進の計画ありて貞成にも出歌を促す。
2月 6日	茶会順事(回茶七所勝負)あり、寿蔵主頭人なり。
2月 7日	三位以下松山に松を取りに行く。帰りを待って連歌を行う。
2月 8日	昨日の松を庭に植える。治仁手植えの栗の木を三位所望につき与える。
2月 9日	貞成御香宮・不動堂へ参詣。葆光院(治仁)一周忌、三時勤行始まる。
2月10日	時正(春季彼岸)初日。長階局より仏事料の助成を受ける。
2月11日	仏事齋・点心等行う。
2月12日	法華経書写、焼香等の仏事あり。梅見遊覧。
2月13日	時正(春季彼岸)中日。
2月15日	彼岸仏事。貞成、父天通院の五部大乘経書写の遺志を継ぎ書写を決意する。(聞)御室新御所(将軍舎弟)廿二歳で入滅。
2月16日	時正(彼岸)結願。(聞)石井蕪中(新堂前)に奇女出現、狐かという噂。
2月19日	貞成、菊亭へ北野法楽に和歌十三首を詠み遣わす。
2月21日	正月十日六条殿後戸伊勢八幡社の戸から鳥侵入。怪異として大般若経転読す。
2月22日	貞成、良明房「坊主開」(坊主新任披露)の為、法安寺に行く。帰路花見。
2月23日	貞成、御香宮馬場へ花見に行く。御所でも花見の際、御香宮聖慶俊が酒持参。連歌一折。*「看」巻二紙背 懐紙三
2月25日	聖廟法楽連歌あり。三位、鹿苑院の返事を報告。来月より月次連歌を始む。将軍義持加冠役をつとめ、花山院忠定猶子耕雲(長親)元服する。*応永二三年十一月九日条参照。
2月27日	春日祭。今出川公富上卿役として下向、左府公行等旅宿として三日間逗留。
2月28日	貞成、伏見宮東庭に花壇を南庭に小弓場を設ける。
2月29日	伏見宮南庭の前栽立石の為、才学のある蔵光庵(主?)を召す。(聞)小川大納言入道(義満舎弟、義詮)、病気で重態とのこと。
3月 1日	雀小弓張行あり。申酉時刻に日食。
3月 2日	小弓張行。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
3月3日	鶏鬮あり、伏見宮に鶏無く五羽都合する。京都北小路今出川より出火炎上。(聞)筑前国住吉本社領家代官職を信濃守為茂所望の件、いまだ決着せず。
3月4日	貞成、仙洞・鹿苑院へ近火見舞いの使者を派遣する。日野一位禅門(性光)より聖幢庵住持職口入の件で使いあり。貞成、蕨採りに出かける。
3月5日	賀茂在弘上巳祓を献ず。
3月6日	貞成、御所旧跡より石を取り寄せる。左府公行より春日祭の有様に付状あり。
3月8日	重有京より戻り、仙洞・鹿苑院の無事を報告。三条坊門大納言(中院)通守、先月十日に自害する。
3月9日	法勝寺五大堂勧進で田楽あり。将軍義持これを見物する。
3月10日	御香宮にて猿楽あり。摂津国鳥飼(座)猿楽出仕。
3月11日	御香宮猿楽昨日同様行う。小弓会あり。
3月12日	日野弁入道持光・山科教高、足利義嗣謀反により配所加賀で誅さる。(聞)矢田地蔵堂で平家勧進の最中に地蔵菩薩が錫杖を振るという話。法勝寺五大堂勧進でまた田楽あり、将軍義持これを見物する。
3月14日	昨日、称光天皇、近来天変火事兵革続きに付、六条殿に御経供養を命ずる。
3月15日	子丑時刻に月食。祈雨により雨降る。小弓会あり。
3月16日	(聞)将軍義持と鹿苑院(主)と不仲とか。
3月17日	車突に羽蟻わく、占は「慎事」とあり。よって貞成小狩衣・大口袴を新調す。法勝寺五大堂勧進での田楽に義持が勾当(局)を召す。
3月18日	廿二日は寶蔵院の開山花林比丘尼の三十三回忌に付、塔頭仏事。(聞)貞成、大光明寺長老(文鼎)から鹿苑院主(顎隠)が将軍の怒りをかった理由を聞く。
3月19日	小弓会あり。
3月20日	塔頭仏事に故花林縁者参る。日野性光聖幢庵住持職就任は国母口入れとの事。
3月21日	塔頭仏事。貞成山つつじを見物に月見岡辺に行く。
3月23日	小弓会あり。七所勝負。
3月24日	播州国衙検注の件、守護了解する。鹿苑院主、将軍の怒りにふれ隠居との事。
3月25日	小弓会あり。伏見宮男女、賽を打つ。
3月26日	月次連歌あり、善基頭役として申沙汰。
3月27日	一昨日に続き賽を打つ。安一座頭参る。貞成、日野に聖幢庵住持職安堵する。
3月28日	貞成風呂に入る。三位以下、熊野参詣を企て今日から講を始める。
3月29日	小弓会あり、重有順事の頭役。
3月30日	三月盡の和歌出題。塔頭にて会合あり、安一(座頭)参り平家を申す。鹿苑院主(顎隠)廿七日に相国寺入院を命じられる。義持との不和解決か。
4月1日	小弓あり、懸物は賭弓のごとくであった。
4月4日	貞成、除目聞書を披見する。
4月5日	播州飾磨津別府代官職を赤松性応所望により奉行勝阿に補任状書下を命じる。足利義嗣子息、泉涌寺喝食として入室さるも、仙洞より苦情ありて富樫へ戻す。
4月6日	後伏見院聖忌法事讚、椎野寺で行う。近年黒田庄役減少により御所で行えず。(後聞)椎野寺僧、法事讚終了後に妻敵に殺害される。
4月7日	(聞)熊野神輿動座にて守護を訴える。去五日鹿苑院で絶海中津十三年忌あり。将軍義持、鹿苑院に入御。顎隠との関係を修復する。
4月8日	貞成、大光明寺仏生会(浴仏之儀)へ参る。
4月10日	祖一勾当(座頭)、伏見宮へ参り平家を申す。
4月11日	天変。夜、京極屋形近辺で火事あり。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
4月13日	寿蔵主領知の山城国多嘉（多賀）と戸野（富野）の間に確執あり。
4月15日	柳原行光、天龍寺仏事にて周乾蔵主、後堂首座兼弘を勤めた様を語る。土倉寶泉の土蔵新造祝いに三位以下出かける。
4月16日	貞成、周乾蔵主の首座兼弘無為に付、賀状を遣わす。小弓あり。
4月17日	賀茂祭。典侍は中山中納言息女とのこと。
4月19日	天龍寺長老（前大光明寺長老徳祥）が周乾を首座に登用する考えあり。室町院領越州梶庄菅名庄代官職を田村盛兼が所望につき、これを仰せ付ける。
4月21日	炎旱により祈雨の奉幣（使）を行う。相国寺・天龍寺でも祈祷あり。貞成、田向新造邸に招待され関係者一同で出かける。
4月22日	貞成頭役として月次連歌行う。
4月23日	貞成、光臺寺風呂に入る。
4月24日	熊野社僧神輿を奉じ紀伊田辺辺で畠山満家と合戦。
4月25日	祈雨奉幣行う。
4月27日	武蔵堀池の内の山野、明盛押領の由、性徳院訴える。よって停止を仰せる。
4月29日	南禅寺にて三百三十三人の僧が祈雨の観音懺法を行う。
4月30日	小弓あり。
5月1日	小弓あり、明日田向にて百手射ること。
5月2日	小弓明日も百手。等持寺八講始まる。
5月3日	弓、百手会あり。
5月4日	早朝より軒菖蒲を葺く。将軍へ続命縷（葉玉）を贈る。菊亭より菖蒲枕。
5月5日	端午節句。貞成風呂に入る。
5月6日	等持寺八講結願。
5月8日	貞成、御香宮へ参詣する。女官賀々、重有の子供男子を出産する。
5月9日	貞成、陽明局へ行き飲酒。
5月10日	性徳院より武蔵堀池明盛押領の件で使いの僧が参る。
5月11日	貞成等、囲碁を廻打つ。
5月14日	小河大納言（前権大納言足利満詮）逝去。
5月15日	庭田（田向）にて故明堯七回忌の仏事あり。足利満詮に従一位左大臣を追贈。小倉公種、満詮に殉じ出家、所望により正二位大納言を贈られる。
5月16日	貞成、退蔵庵・指月庵等を歴覧する。満詮茶毘にふさる。
5月19日	水無瀬三位入道（法覚・具隆）が源氏（橋姫・夢浮橋）の書写を所望する。
5月22日	貞成、前宰相に満詮のことで広橋（伝奏）経由で室町殿へ弔問を仰せる。
5月24日	正永（冷泉範綱）参り、囲碁双六を回し打つ。
5月25日	貞成風呂に入る。前宰相に御恩として三木闕所を与える。囲碁を打つ。
5月26日	貞成、水無瀬の再三の懇望により源氏二帖書写を了承する。播州飾磨津別府を赤松小寺入道所望の件、萩原宮平岡御比丘尼より支障あり。
5月27日	智恩院より宇治茶を進呈さる。
5月30日	貞成、体調を崩し終日床に臥せる。
6月1日	貞成、恒例の愛染王堂参詣。
6月2日	貞成瘧病発作。（聞）諸大名の動静不穩により将軍警護を固めるとのこと。
6月4日	貞成瘧病発作、退蔵庵の僧秘術を行う。
6月5日	広橋三位（右大弁資光？）より来るようにとのことで人（三位）を派遣する。
6月6日	貞成瘧病発作あり、（退蔵庵僧）の秘術でこれを落とす。三位、広橋より戻り青蓮院・御室に御弟子無く伏見宮に人材の有無を問い合わせありとのこと。足利義嗣謀反事件で畠山・山名・土岐加担として罪を問われる。
6月7日	祇園会、足利満詮逝去のことで結構無し。けれども義量御臺見物する。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
6月8日	侍所所司代、状をもって去年の盗人事件で禪啓・三木善理の出頭を要請。(聞)久我通宣、將軍突鼻(とつぴ)につき出頭の要請あり、貞成は明日応じる由。
6月9日	御香宮へ今日から供花。富樫(侍所)所司代より使いあるも居留守。
6月10日	侍所へ返事の後また三木を政所で尋問に付出頭の要請あり貞成明日応じる由。(聞)夜、一条烏丸薬師堂焼失する。
6月11日	小川禪啓侍所へ出頭し、三木帰住拒否の旨伝奏広橋に伝える。
6月12日	三位・禪啓所司代へ出頭するも三木善理不参。御領の件は追って披露との事。伝奏広橋のことにつき落書あり。椿一検校が参り平家を申す。*「中央之儀」。
6月13日	玉櫛禪門所望により森船を遣わす。三木善理ついに侍所へは現れず。鹿苑院顎隠が逐電する。貞成受衣師弟の契約を申請中につき落胆する。*紙背160号
6月14日	祇園会毎年の通り。貞成風呂に入る。
6月15日	用健(乾蔵主)後堂寮を退いたこと挨拶。顎隠十二日に逐電し土佐汲江庵へ。
6月17日	梅尾経増、文書を示し備中大島保四分の一と飾磨津別府の返付を申し入れる。田村盛兼参り、日向国平群庄代官職を所望する。貞成、不審に思いながらも仰せ付ける。
6月18日	大風・大雨。惣得庵(主)、伏見宮に参る。
6月19日	炎旱に付東寺・三井寺に祈雨を仰せた法験による大風雨か。恵舜蔵主一周忌。
6月21日	廿四日故三条公豊十三回忌仏事の為、対御方(貞成継母)出京する。(聞)相国寺長老(九条故禅閣息)、顎隠逐電後の鹿苑院主を兼帯するため移住する。
6月22日	貞成、指月庵に行き、その後大光明寺の風呂に入る。
6月23日	夕立・雷鳴。貞成、六月の夕立を喜ぶ。
6月24日	光明院聖忌の仏事が大光明寺にて行われるも貞成不参加。(聞)故内府入道十三回忌のため椎野寺に対御方・三条公光一党が出かける。
6月25日	大津馬借等、祇園神輿を奉じて嗽訴する。將軍義持、侍所に命じて鎮圧。
6月26日	伏見庄内の確執により深草で地下人の合戦あり。
6月27日	菊亭故東向(故左府入道室・貞成養母)廿五年忌の仏事を行う。貞成、伏見宮常御所の造作を命じ、障子(障子絵花園院宸筆)を入れる。
6月28日	昨日からの造作、今日で終わる。
6月29日	源宰相参り、六月祓の輪役を近年勤めている事等話す。
7月1日	伏見宮で楽あり。豊原郷秋参る。
7月2日	楽あり。(聞)内裏新内侍懐妊に付、称光天皇が伏見宮の男共の子かと疑う。
7月3日	楽あり。
7月4日	源宰相、宇治今伊勢に参詣し土産を貞成に進呈する。
7月5日	楽あり。菊亭より花合わせに用いる草花の所望あり。
7月6日	貞成、菊亭へ草花一箇遣わす。楽あり。
7月7日	七夕。梶の葉法楽あり。貞成、光厳院忌日に付大光明寺へ参り焼香する。七夕法楽花合を伏見宮常御所にて行う。仙洞での花合・楽の次第を記す。
7月8日	左府より昨日話題になった蘇合急三反説のことで書状あり。
7月9日	花飾りを撤収する。豊原郷秋参り楽あり。
7月10日	対御方三条より戻り新内侍懐妊の嫌疑に付語る。
7月11日	周郷(天龍寺)掛塔に貞成書状を用いる件、長老より叶わぬ旨返事あり。芝殿、勾當局に参り新内侍懐妊事件につき長資と行豊に嫌疑ありと聞く。
7月12日	三条大納言公量、延光名主職を三条青侍教基所望の旨を伝える。
7月13日	杉殿廿五年忌仏事が来る十五日塔頭であり。



「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
7月14日	新内侍懐妊の嫌疑が貞成にかかっているが事実はどうかと内々のお尋ねあり。
7月15日	貞成仮名書状で自身の申しひらき。伏見宮関係者にも告文提出の旨伝える。
7月16日	貞成書状は伝奏を通じ將軍へ披露、いささか疑い晴れるとのこと。
7月17日	貞成、嫌疑を晴らす為北野社へ代参、大光明寺他へ祈祷を命じる。貞成も三位・重有と同じく宝印を翻して告文を書く。
7月18日	貞成と三位等嫌疑の者、疑いを晴らす為早朝より御香宮へ参詣し御百度。
7月20日	貞成三日間の御百度満了、御香宮にて大般若經転読を行わしむ。
7月22日	貞成告文を將軍披見せず伝奏に読ませ仙洞へ披露を命ず。院、貞成告文を見て明瞭な返事無し。將軍、岩頭を召還し伏見宮での猿樂興行の有無を尋ねるも興行せずと答う。勾當、新内侍懐妊の責任を問わるも將軍留保。
7月23日	大光明寺・退蔵庵・蔵光庵、祈祷の為、大般若經転読実施を報告する。
7月25日	貞成、早朝より三社（御香宮・山田・権現）へ参詣。北野社へは七日の代参。月次連歌。
7月26日	(聞)来月廿八日、一条関白息（義持猶子）青蓮院で得度し鎌倉大御堂へ入室。
7月28日	仙洞から去年の八朔の御返（香箱・盆・引合）が伏見宮に届く。*巻六紙背 75号
7月29日	夜大雨降り、深夜には雷鳴。
7月30日	八朔の進物の準備。
8月1日	貞成、八朔の進物を仙洞・將軍・若公へ届けさせる。
8月2日	將軍・若公より八朔の御返到来。座頭了珍参り四五句申す。
8月3日	菊亭（今出川）より八朔の三日憑進上。寿蔵主等からも御憑。
8月4日	源宰相、御憑として太刀一振を持参する。
8月5日	楽・朗詠あり。長階局より御憑献上さる。
8月6日	貞成御憑返しを宮中男女に与える。牛飼孫石丸・孫高丸（孫石丸子）参る。
8月7日	早朝より楽あり。
8月9日	水無瀬（法覚）懇望の源氏（物語）二帖の書写を終え、これを遣わす。貞成、他所へ預けてあった大通院御物を取り戻す。*五月十九日条参照。
8月10日	(聞)関東大名南部（守行）、上洛し將軍へ馬百疋金千両献上するとの事。
8月12日	水無瀬（法覚）、源氏物語書写の礼を貞成に述べる。
8月13日	貞成、御香宮へ今月から三ヶ年の月詣を立願し、今日より始める。
8月14日	石清水放生会、長資次将として出仕（恒例）。(聞)相国寺法界門建立さる。
8月15日	放生会にて石清水神人訴訟（籠居?）により延引する、一昨年同様か。
8月16日	時正（秋期彼岸）初日。小規模な地震あり。
8月17日	將軍義持、諸社にて恠異あるにより五檀法を修す。伏見宮に盲女（愛寿と弟子菊寿）参り芸能五六句申す。
8月18日	勘解由小路武衛他界する。貞成、大通院三周忌作善として法華經写經を始む。
8月19日	(聞)武衛往生の様に付、万人群集し、將軍ご覽との事。嗟峨法音院に土葬す。
8月22日	彼岸結願。大通院御相伝の仏舎利を取り出して見る。
8月23日	貞成、指月庵に行き、顎隠の替わりとして大幢院主に便宜を頼む。
8月24日	珠侍者参り障子色紙形詩に付、談ず。
8月25日	月次連歌あり、夜に百韻を終える。
8月27日	貞成、例によって風呂に入る。
8月28日	四条隆富一献持参し参る。
8月晦日	貞成、野遊びに出かけ、蒼玉庵にて栗拾い等楽しむ。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
9月1日	御香宮祭礼。貞成、密かに相撲を見物する。
9月2日	貞成、鵝障子（常御所造作の障子破損箇所）の色紙形の詩を妙法院宮に所望。松木宗量（宗宣）、新内侍懷妊事件讒奏と国母との密通の件で院の勅勘を被る。
9月3日	妙法院宮に所望していた色紙詩を賜う。
9月6日	称光天皇、喉痺御悩。
9月8日	所司代より両使ありて三木善理以下帰住・田畑返還を求む。
9月9日	重陽節句。貞成、御香宮祭礼見物の為田向に行く。神主供奉せず。
9月10日	師子参る。法安寺にて猿楽あるも貞成所用ありて見物できず残念がる。
9月11日	将軍、三木の件、善理・善康の帰住を認めるも、請文提出を仰せ付ける。夜、山田宮・権現等で猿楽あり。
9月12日	貞成派遣の三位戻り、三木処分に付畠山より嘆申すとの事。
9月13日	三木処分請文の件、畠山納得せず。闕所名田も返還との事。
9月14日	貞成、将軍の三木帰住に付お尋ねあり、貞成帰住許可、請文提出要と返答。
9月15日	貞成、三木善理以下の名田屋敷返還の奉書を発給する。将軍御修法始む。
9月17日	貞成、梅尾経僧の播州飾磨津別府代官職課役加増の請文を了承する。
9月19日	栗博奕あり。
9月20日	貞成持齋する。
9月21日	将軍義持、今日伊勢参宮とのこと。
9月22日	昨日予定の将軍参宮は雨天延期で今日下向とのこと。
9月24日	三条公量の青侍（伏見）延光名代官職所望の件で院宣案文を見せられる。
9月25日	月次連歌延引、但し五十韻だけ行う。
9月26日	昨日五十韻で終わった連歌、今日百韻終える。
9月27日	禪準蔵主七回忌を東福寺塔頭にて行う。将軍伊勢よりの帰路宇治坂迎え用意。
9月29日	（聞）禁裏（称光天皇）御悩にて御修法行われるとのこと。
10月1日	初冬之節。
10月2日	智恩院隆秀僧正参り貞成対面する。その後蹴鞠あり。称光天皇の御悩は御風気と医師が診断する。これは禁中にて化け物を御覧になって以来との風評あり。
10月3日	洪蔭蔵主参る。貞成虚名無為の祈願として始めた北野社立願の和歌を詠む。
10月4日	貞成、飾磨津別府・武蔵堀池・大嶋保の三件、安堵の令旨を発給する。 *紙背255号
10月5日	称光天皇御悩快癒祈願の七社奉幣（使）を派遣する。権野、不断念仏料所（室町院領）丹波田村庄課役を無沙汰につき、貞成、御書を出す。
10月6日	豊原郷秋参り楽あり。
10月7日	三福寺前住他界後は坊主幼少（大館末子十一歳）とのこと。
10月8日	（聞）勝阿、中風脚気にて重体とのこと。
10月9日	（新造）田向邸に鞠懸りの木を植える（蹴鞠場所の四隅？）。
10月11日	三条大納言公量、梅木所望に付一本遣わす。貞成松茸狩に行くも採れず。
10月12日	仙洞より御返事（勅報）到来。今後は直状を許可する旨仰せあり。
10月13日	善基、即成院の梅木を貞成に献上する。
10月14日	勝阿、今日他界したとのこと。遺跡は祐誉が相続。
10月16日	備中国園庄を守護細川頼重に宛行うに付、補任を要請する。
10月18日	水無瀬法覚依頼で書写の源氏は仙洞祇候の上臈局の本を無許可で利用との事。
10月19日	源氏無断書写一件は重大過失として将軍からお尋ねあり仲介の惣得庵を呼ぶ。
10月20日	源氏書写一件は、照合の為目録を提出すべし、戯事ゆえ大事に至らずと。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
10月21日	室町殿へ書写源氏の目録を提出する。将軍より無為の御返事、貞成安堵す。
10月22日	貞成、源氏書写一件で仙洞へ書状を献ずる旨の書状を三条大納言へ遣わす。
10月23日	貞成、書状にて仙洞へ源氏書写一件と信州五ヶ庄の件を申入れる。
10月24日	(聞)室町幕府、一色左京大夫(義貫)を山城国守護に補任する。
10月25日	永圓寺長老参り貞成と対面。武蔵堀池の違乱停止の令旨の御礼に永圓寺長老参る。月次連歌。*「看」卷二紙背 懐紙四
10月26日	菊亭仕女別当(公富母)病状悪く落髪せしむ。
10月27日	新任山城守護一色義貫より伏見庄地下人(御領沙汰人名主)に忠節を要求。備中園西庄・東庄の代官に対して細川方まず両庄地下の掌握を要請する。*「当所守護不入」。
10月29日	貞成、山城守護一色義貫に対して、伏見庄沙汰人名主等の軍役等を拒む。
11月 1日	幕府、山城守護代に守護一色義貫の代を若狭でも勤めた三方範忠を補任する。(聞)菊亭中納言公富の母他界する。
11月 4日	聖廟法楽百首和歌を勧進する。
11月 5日	妙法院門跡、伏見宮の松を所望に付、進呈する。楽あり。
11月 6日	貞成風呂に入る。大通院第三廻の看経を今日から始める。
11月 8日	将軍義持、石山寺へ参詣し、観音懺法を勤修。
11月 9日	勧修寺経興播磨国衙検注では国大損亡との事、本年中に沙汰せよと守護下知。
11月12日	貞成、一筆書写法華経(8/18～)を結願する。
11月13日	大通院三回忌の仏事あり。(聞)将軍義持、石清水八幡宮へ参詣。
11月14日	三位の私仏事が結願する。
11月15日	石清水放生会が将軍義持御参籠のもと行われる。
11月17日	大通院三回忌仏事の仏事料を勾当局・対御方より進呈さる。関白一条経嗣薨ず、貞成「有職漢才等抜群・公家之鏡」と、その死を悼む。
11月18日	大通院の仏事が続く。夜に妙一座頭参り仏前で両句を語る。
11月19日	大通院仏事今日で満散。仏事料少乏のところ仙洞より二千疋の助成あり。この助成で観音懺法の実施の評定を始める。椿一検校が参り仏前で両三句語る。
11月20日	仏事、点心以下進められる。椿一検校、平家を語る。
11月21日	貞成、仙洞からの仏事料御助成を賀し酒宴。椿一の平家を聞く。夜、土御門高倉辺焼亡し女官阿五の宿所が炎上する。
11月22日	仙洞からの御助成を申次した永基に礼物を遣わすも受け取らず。薪順事あり。
11月23日	楽あり。(聞)土倉寶泉の妻が産後が悪く死去。
11月24日	(聞)富樫満成、将軍義持北野社参籠中に御突鼻、よって(高野山へ)没落。東南院宮(梅尾義仁親王宮)が入滅。
11月25日	連歌あり。(聞)富樫満成の没落の要因種々あり、高野山へ没落すと。満成の加賀守護職惣領預分は關所、宿所は細川阿波子息に下付。*「看」卷二紙背 懐紙五
11月26日	貞成、母を失った菊亭中納言公富を気遣い助成する。
11月27日	仏事で滞在していた貞成連枝用健(周乾)・洪蔭蔵主が嗟峨に帰る。
11月30日	(聞)十種香の勝負あり。
12月 1日	朔日。
12月 2日	故勝阿の五句仏事が昨日あり形見を相続者祐誉が持参する。郷秋参り楽。任大臣節会あり、今出川公行が左大臣を辞し九条満教が後任となり関白を兼ねる。
12月 4日	貞成大光明寺風呂に入る。夜北土蔵へ強盗入る。
12月 6日	仙洞から御返事御書あり。盗人糾明の為地下一庄御香宮に集まり告文を書く。

「看聞日記」記事要旨一覧表（応永23年～25年）

年・月・日	記事の要旨
12月7日	貞成、故勝阿御恩知行の若狭松永の安堵令旨を後継者祐誉に下す。
12月9日	伏見宮で薪順事あり、その合間に和歌一折あり。
12月10日	貞成生母故西御方の年忌仏事を塔頭で行う。新内侍、皇女を出産。
12月11日	椎野（貞成連枝）寺（光明庵）に帰る。
12月12日	貞成、三位を遣わし播州市別府の件を広橋（兼宣）に相談する。
12月13日	使三位、広橋より戻る。
12月14日	伏見宮で煤払いを行う（陰陽師勘進）。
12月15日	安楽光院長老歳末の礼に参るも貞成対面せず。興福寺維摩会始まる。
12月16日	貞成、相国寺転経供養に参る。大工源内に塗籠内部の室礼をさせる。
12月17日	番匠（大工源内）塗籠の室礼を終える。薪順事あり。
12月18日	故治仁王の三女（二歳）御髪置の儀あり。長女七歳は仁和寺鳴瀧殿へ入室の契約、廿六日入室予定。（聞）義持参内し新内侍懐妊事件での勾當局の処分を免除。相国寺鎮守社炎上、火元は神子家。
12月19日	四弦の百日稽古、和歌等無事に結願する。
12月20日	賀茂在弘が新曆・八卦等を献上する。（聞）新内侍は処分なし。
12月21日	豊原郷秋参り楽あり。夜、薪順事あり。
12月22日	薪順事あり。連歌百韻行う。*「看」卷二紙背 懐紙六
12月23日	内侍所にて御神楽あり。玉櫛禪門他界する。
12月24日	播州飾磨津別府の年貢を山坊経僧律師が代官として納める。仙洞へ歳暮礼。
12月25日	貞成、風呂に入る。薪順事あり。
12月26日	葆光院の姫宮（七歳長女）、十地院殿（仁和寺鳴瀧、萩原殿宮）へ入室する。貞成の姫宮（三歳）、賀茂在弘勘進により酉時に御魚味・深剪の祝儀を行う。
12月27日	三方入道使節を以、三木善理訴訟四ヶ条目安を見せらる。
12月28日	土御門泰継、新曆・八卦等を献上する。称光天皇、貢馬御覧あり。
12月晦日	貞成、早朝より御香宮へ参詣。陰陽師土御門有清（泰家息）新曆八卦等持参。

（尾崎安啓）